

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和10 二一七九 暗

羅馬 本省

八日後發 二月九日前着



人

廣田外務大臣

杉村大使

第二二號

往電第二一號ニ關シ

形勢幸ニ我ニ有利トナリタルモ本使出席セサレハ「オスロ」會議ニ
於テ東京市ノ主張貫徹ニ當ルヘキ我方ノ委員ナキ次第ニモアリ出張
方特ニ御許可ヲ請フ

外務省



911203

129

ラルルニ於テハ右宣言ノ成立ニ欣然全幅ノ支持ヲ與ヘント約シ極メ
テ朗ナル氣分ニテ會見ヲ終レリ

外務省



911203

130

I-0487

電 信 案

外 務 省

合、於テ由本側一九四四年羅馬開催宣言ヲ
 持テ、於テハ一九四〇年ハ讓步スル旨言明セリ

又方決定シ各國ノ「オリンピック」委員、依頼電報
 ヲ發スル等極力運動中ナリ然ルニ伊太利側、於
 テモ羅馬開催、熱心準備中ニ報テ日伊力有
 カナル候補トナレル処今般「ハツソリー」ハ杉村大使
 に対し本月下旬「オスロ」ニ於ケル「オリンピック」委員
 會、於テ由本側一九四四年羅馬開催宣言ヲ

S 911203 132

大臣 佐藤 次官

歐亞局 第二課長

電信課長 13 34

主管 情報部長 主任 第二課長

昭和十年二月十三日起草

電送第 1715-6 號

昭和十年二月十三日 午後 時 分 發

件 宛

國際「オリンピック」東京開催
 関係件

合第 井 號

件録記

發 廣 田 大 臣

一九四〇年ハ我々紀元二千六百年ニ當ルヲ以テ之ヲ紀念スル
 意味モアリ東京市ニ於テハ今年ノ「オリンピック」ヲ是非東京ニ開
 催方切望シ既ニ各國選手來朝旅費補助トシテ百萬圓支

S 911203 131

I-0487

電信案

外務省

在米各館（「ホノル」ヲ含む）加奈陀「メキシコ」
及「キューバ」ハ暫教スルト共ニ伯ヘ轉電シ伯ヨリ
南米各館ハ暫教セシメラレヌ
（ト附記スルコト）

（原議用紙乙）



911203

134

電信案

外務省

依テ東京市ヨリ
孰シ「前記」オスロ「委員」令投票ニ於テ東京市
後援
後ニ決定實現方「南」機宜ニ應ニ可然市申出
五本交
（佛宛ニハ）
英「独」瑞典ハ轉電シ「御裁量ニ依リ」其他在欧
（轉電又ハ）
各大公使ヘ暫教アリ交
（米宛ニハ）

（原議用紙乙）



911203

133

I-0487

1.12.0.9

情報部長

次官

大臣

懸案

文書課長

文書課發 昭和拾年貳月拾參日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 人事課長

任 主

昭和十年二月十三日起草

人

機密 第一三二號

昭和拾年貳月拾參日

日附 附屬

受

牛原東市市長

重光外務次官

人

名

名件録記

五除オリムピア選抜
工正等組一併

名

杉村特命全權大使より十回開降オリムピア競技大会招致
閣下事務嘱託件

存件之閣下事務嘱託件本月十三日附職秘一八九號より御申
外務大臣宛

越ノ趣了美大内省ニ於テ美文書ニ付改回答ス

公 信 案

外 務 省



911203

135

13 102

I-0487

職秘第一九八號

昭和十年二月十三日

東京市長 牛塚 虎 太

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

囑託ニ關スル件

伊國駐劄大使杉村陽太郎氏ニ對シ第十二回國際オリンピック競技大會招致ニ關スル事務ヲ囑託致度候ニ付テハ御差支ノ有無承知致度此段御依頼候也

東京市



S

911203

136

I-0487

第一編

會計學



杉村が僕に東京から帰るのを留め、
就中事件の秘密をうかがひ、
「おやう」

市職員の課ヨリ昭和45年度

一、韓公ハ帝ヨリ大使宛通達ノ由
二、金ハ情報部第二課長ハ提出シ外務省

二 和 平 美 金 配 e 公 中 由

拜啓 本月十四日國際オリンピック委員會ニ出席方御依頼候ニ付
テハ其ノ旅費トシテ金五千圓ヲ贈呈候間御受領相成度候

昭和十年二月十四日

東京市長 牛 塚 虎 太 郎

杉
村
陽
太
郎
殿

東京市



91120-3

137

情報部長

第二課長

人事課長



市職労協より送る。受
録今般第十二回國際オリンピック競技大會招致ニ關スル事務
ヲ囑託候ニ付テハ昭和十年二月諾威國ニ於ケル國際オリンピック
ク委員會ニ御出席ノ上右大會ヲ東京ニ開催セシムルコトニ關シ
各國ノ國際オリンピック委員其ノ他ニ勸請相成度此段御依頼候
敬具

昭和十年二月十四日

東京市長 牛塚虎太郎

杉村陽太郎殿

東京市



911203

138

I-0487

東京市麴町區丸之内三丁目一番地

東京市役所

電話 丸之内(二三) 代表 〇五二一
番號 〇五二一 (9) (9)

外務省情報部

中二課

土田事務官殿



I-0487

0:14

情報部長 第二課長

人事課長

寫

第十二回國際オリンピック競技大會招致ニ關スル事務ヲ囑託候也

昭和七年二月十四日

東京市役所

杉村陽太郎殿

東京市

二月十四日受

喜多

S

911203

139

I-0487

015

東京市麹町區丸之内三丁目一番地

東京市役所

電話 丸之内(二三) 代表 〇五一一
番號 〇五二一 (9) (9)

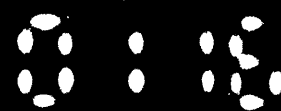
外務省

情報部第二課

吉岡 事務官

殿

I-0487



二月十三日發在外各大公使宛電報寫
東京市ニ於テハ一九四〇年カ皇紀二千六百年ニ當ルヲ以テ之ヲ紀念
スル爲是非同年ノ「オリムピック」ヲ東京ニ開催方ヲ切望シ各國ノ
「オリムピック」委員ニ依頼電報ヲ發シ各國選手來朝旅費補助ニ充
ツル爲百萬圓支出スルコトニ決定スル等極力運動中ナリ然ルニ一方
伊太利側ニ於テモ羅馬ニ開催セントシ熱心ニ準備シツツアル趣ニシ
テ日伊兩國カ有力ナル候補トナリタル次第ナルカ今般「ムソツリ
ニ」首相ハ本月下旬「オスロ」ニ於テ開催ノ「オリムピック」委員
會ニ於テ一九四四年羅馬開催ノ宣言ヲ爲スニ於テハ一九四〇年ハ讓
歩スヘキ旨杉村大使ニ言明セル由ナリ就テハ東京市ヨリ申出ノ次第
モアルニ付前記「オスロ」委員會投票ニ於テ東京開催決定ヲ見ル様
機宜ニ應シ可然御援助相成度

外務省



911203

140

二月十三日發齋藤駐米大使宛電報寫
「オリムピック」東京誘致ノ件ニ關シ本月上旬東京市ヨリ各國委員
ニ發シタル依頼電報ニ對シ米國「オリムピック」委員「シエリル」
ヨリ貴大使カ右依頼ニ「デイスアグリ」ノ模様ナル旨返電アリタ
ル趣ナルカ東京市トシテハ右ハ何等誤解ニ依ルモノト思考セラルル
モ萬一「オスロ」委員會ニ於テ「シエリル」カ右風聞ヲ傳ヘ東京開催
反對ノ宣傳ヲ爲スコトナキヤノ虞アルヲ以テ此ノ際貴大使ヨリ同人
ニ對シ然ルヘク申聞ケラレ度キ旨願出ノ次第アリタルニ付可然御配
慮相成度

外務省



911203

141

I-0487

二月十三日 發杉村駐伊大使宛電報寫

「オリムピック」ニ關スル「ムツソリーニ」ノ言明ニ對シ東京市ハ
頗ル満足シ十三日市會ノ決議ヲ以テ「ム」首相宛直接謝電ヲ發シタ
ル趣ナルカ貴大使ヨリモ適當ノ機會ニ「ム」首相ニ本邦願望ノ謝意
傳達方依頼越スト共ニ東京市長ヨリ貴大使ニ對スル謝意傳達アリ度
キ旨並ニ東京市ニ於テハ南米及濠洲其ノ他相當ノ票數ハ本邦ニ有利
ナルヘキ旨ノ内報ニ接シ居ル次第ニモアリ此ノ上共「オスロ」委員
會ニ於テ成功ヲ期スル様貴大使ノ御盡力ヲ御願致度キ旨申出アリタ
ルニ付可然御配慮相成度

外務省



911203

142

I-0487

0:05

大臣

次官

電 信 案	外 務 省	東京市長ヨリ各回「ガリレオ」委員ニ依 頼電報ヲ送ルル知未至委員「レエリン」ヨリ	往電合算 #1 号ニ関シ	第 三 九 號	電送第 1713 號	主 管 情 報 部 長
					昭和十一年二月十四日午後七時二十分發	宛 在 米 育 藤 久 使
					件 ガ 内 容 ニ 関 シ テ 事 務 局 長 ニ 送 付 ス	任 主 第 二 課 長
					名 件 録 記	發 廣 田 大 臣

電信課長

13

35

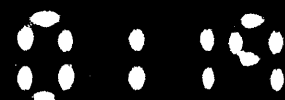
昭和十一年二月十三日起草



911203

143

I-0487



次官

電信課長	主 情報部長	主 第一課長	昭和十年二月十二日 起草	電送第 1712 號	第 1 號
				昭和十年二月十三日 午後 7 時 一分發	第 1 號
宛	在 伊	杉村 久 使	發 廣田 長 官	件	東京市に於けるハロウの満足と市会ノ決議ニ依リ
				件	東京市に於けるハロウの満足と市会ノ決議ニ依リ
電信案	電信案	電信案	電信案	電信案	電信案



911203

145

33

電信課長	主 情報部長	主 第一課長	昭和十年二月十二日 起草	電送第 1712 號	第 1 號
電信案	電信案	電信案	電信案	電信案	電信案



911203

144

(原議用紙乙)

I-0487

電信案

外務省

アリソン、付可、配意相、
5

(原議用紙乙)



911203

147

電信案

外務省

ナルカ、同日東京市長、貴大使、対スル謝意
傳達、方、依頼申出アルト、貴大使ヨリ、適当ノ
機会、於テ、ハ、本邦朝野ノ謝意、傳達
方、配意相、於中、為、東京市、於テハ、
維、豪、於、中、為、東京市、於テハ、
接シ、居ル、方、ハ、此上、貴大使、
於、今、成功、期、を、採、ル、方、ヲ、
於、今、成功、期、を、採、ル、方、ヲ、

(原議用紙乙)



911203

146

I-0487

12

5

四十二ヶ品

二十六、
45 其中一個空席、
安葬四十名

✓英 (三)
✓佛 (三)
✓猪 (三)
伊 (三)

白(三) 西(二) 蘭(二) 波(二)

2
2
(2)
✓
11
7
!
(=)
(=)
✓
瑞
典
(二)
诺威
(一)

塙	(一)
リ ハ ナ リ ヤ	(三)
予	(二)
日 瑞 西	(一)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑

外務省

91120-3

外務省

91120-3

I-0487

亞細亞
 三ノ國
 五ノ名
 目
 (三)
 支
 (二)
 印
 (一)

濠
 三ノ國
 三ノ名
 濠
 (二)
 支
 (一)



91120-3

151

亞細亞

三子圖
五者

12)

支

٢٠٠

濠

子圖、
三

蒙 (2)

22
11
32
27
C

中米 (一) 三ヶ國 二名
 豊 (一) 中米 (一) 仁巴里
 南中米 五ヶ國 八名
 伯 (三) 仁巴里 (二)
 知新 (一) ペル (一)
 ウルツアイ (一)



91120-3

150

中

三ノ圖
二ノ名

墨(一)

中朱(一)

玫瑰

南

五子園
八名

✓
12
3

2

$\frac{L}{L_0}$
 $\frac{v}{v_0}$


120

ウ
ル
グ
ア
イ
E

情報部長

第二課長

(美濃半蔵野紙) (イ)

オリゴグラフ

杉野 俊成

東京市長 牛塚虎太郎

東京市會議長 森 俊 成

辰 野 保

一、三月三日 次安多事 依頼アリ
一、杉野 俊成 氏 電報分次
急務

外務省



911203

152

I-0487

ムツソリーニ首相宛謝電ノ件									
一九四〇年國際オリンピック大會東京開催ニ對シ閣下ガ絶大ノ御									
厚意ヲ示サレタルコトハ同大會ノ東洋開催ヲ熱望シ且我が建國ニ									
千六百年ヲ記念セントスル東京市民及全日本國民ノ衷心感謝ニ堪									
ヘサル處ナリ									
若シ東京ガ第十二回大會開催地ト決定セバ本市ハ其ノ光輝アル遂									
行ニ最善ノ努力ヲ致シ尙第十三回大會ニ關シテハ必ズヤ閣下ノ御									
東京市									
期待ニ副フベク全幅ノ盡力ヲ吝マズ以テ今回ノ御厚意ニ酬ユベシ									
玆ニ東京市會滿場一致ノ議決ヲ經テ重ネテ深甚ナル謝意ヲ表シ併									
セテ閣下ノ御健康ト伊太利國家ノ御繁榮ヲ祈ル									
東京市長									

S 911203

154

S

911203

153

I-0487

在羅馬杉村大使發廣田外務大臣宛二月九日着電報寫

本使副島伯ト二月八日伊國首相「ムツソリーニ」ヲ往訪ス伊國外務
次官「スウビツチ」立會フ我方ヨリ一應東京市ノ主張ヲ訴ヘタルニ
對シ「ムツソリニ」ハ伊國側ハ徒ニ事ヲ面倒ナラシムルヲ避クル爲
來ルヘキ「オスロ」會議ニ於テ若シ一九四四年ニ羅馬開催ノ宣言ヲ
爲スニ於テハ一九四〇年ハ快ク大會開催ヲ東京ニ讓ラント言明シタ
レハ「ムツソリニ」ノ好意ヲ謝シ伊太利側ニシテ斯ノ如キ友好的
態度ニ出テラルルニ於テハ右羅馬開催宣言ノ成立ニ欣然全幅ノ支持
ヲ與ヘント約シ極メテ明朗ナル氣分ニテ「ムツソリニ」トノ會見ヲ
終了セリ

東京市

S 911203 156

S 911203 155

I-0487

情報部長

第二課長

(美濃半蔵野紙)

極秘

投票、一般投票
票ナル故日本
支拂スヘキ上
口納アリト云
投票アリ
形勢違者トハ
投票日本前
先ニ申目下
外付内装表
者事者ノ立場
アリト云アリト云

オリベロウ東京投致ノ件

(十二、十四)

東京市役所 清水氏 白耳義人、エバリエ、同
伴、田代ニ課セ、未討、強、日

ハ、カス、ト、安、多、会、ノ、安、員、投、方、十、六、名、(安、多、四、回、
十二、ケ、五、ノ、申、本、部、ノ、有、利、ニ、投、票、見、以、敷、
左、ノ、通、

(イ) エバリエ氏、投、テ、確、実、ト、認、メ、ル、一、

「アムゼン」 二票 (全部)

「フウエル」 三票 (全部)

白耳義 二票 (全部)

外務省



911203

157

智利 一票 (全部)

政理 一票 (リ)

佛國 三票 (リ)

英國 一票 (三票ノ中)

和蘭 二票 (全部)

ハ、カ、リ、 二票 (リ)

伊、タ、利、 三票 (リ)

本、部、 三票 (リ)

墨、國、 一票 (リ)

ペ、ル、 一票 (リ)

波、蘭、 二票 (リ)

ウ、エ、リ、 一票 (リ)

合計 二八票 (十五ヶ國三十票ノ中)

外務省



911203

158

I-0487

ハ、オスに委員を以て之を候補とす									
(四) 以下ハ見込無ク結局四ヶ國ノ競争トナシキ									
知伊太利候補取止メトナラバ有力ナハ									
フイニズド、ナンベレ云々									
フイニズド									
(二) 伊太利									
日中									
カナダ									
(五) 西班牙									
(六) フランス									
(七) ハンガリー									
(八) 埃及									

外務省



911203

160

(四) 清水氏に於て確實ノ見込ナシ									
獨逸									
二票 (三票ノ中)									
濠洲									
二票 (全部)									
カナダ									
一票 (二票ノ中)									
東亞									
二票又ハ三票 (三票ノ中)									
英國									
一票 (ロンドン氏ノ英國一票ト同義)									
スウェーデン									
一票 (全部)									
印度									
一票 (リ)									
ペルー									
一票 (リ)									
破産									
一票 (二票ノ中)									
瑞典									
一票 (二票ノ中)									
小計									
十票 (ロンドン氏ト重複ノ外除キ免致)									
合計三十八票又ハ三十九票 (三十八票ハ四十二票ノ中)									

外務省



911203

159

I-0487

	(十)	1 7 ⁰ 3 B K L
	(九)	1 P H S V 4 Z L

外
務
省

9. 1



91120-3

161

I-0487

- ✓ ○ Chili.....J. Matte Gormaz (1923), Santiago.
- ✓ Chine.....S. E. le Dr. C. T. Wang, (1922), rue
Pere Froc, Shanghai.
- ✓ ○ Cuba.....Porfirio Franca, (1923), H. y 21, Vedado
La Havane.
- ✓ Danemark.....S. A. R. le Prince Axel de Danemark,
(1932), Bernstorffshøj, Gentofte
(Danemark).
- ✓ Egypte.....S. E. Mohamed Taher Pacha, (1934),
Le Caire.
- ✓ Espagne.....le baron de Guell, (1922), Cortes, 641,
Barcelone.
le comte de Vallengano, (1931), Alvarez
Baena, 4, Madrid.
- ✓ Esthonie.....Vacant.
- ✓ X Etats-Unis.....William May Garland, (1922), 1200 W.M.
Garland Building, Los Angeles (Cal.)
S. E. le Général Ch. H. Sherrill, (1922),
20, East 65th street, New York, et 10,
rue de Courcelles, Paris.
le Commodore Ernest Lee Jahnoke (1927),
New-Orleans.
- ✓ Finlande.....Ernst Krogius, (1920), Helsingfors.
- ✓ ○ France.....Albert Glandaz, (1913), Faubourg St. Ho-
noré, 103, Paris (VIII^e).
le Marquis de Polignac, (1914),
64, Boulevard Henry-Vasnier, Reims, et
41, rue St. Dominique - Paris.
François Piétri, (1934), 18, rue de
l'Elysée, Paris.
- ✓ Grande-Bretagne....Lord Aberdare, (1929), 1, Lowndes Squa-
re, Londres, S. W. 1.
OX Lord Burghley, (1933), Wakerley Manor,
Stanford.
Sir Noël Curtis Bennett, (1933),
18, Shepherd House, Londres.
- ✓ Grèce.....X Angelo C. Bolanachi, (1910), Alexandrie
(Egypte) et 2, rue Rembrandt, Paris.
- ✓ ○ Hollande.....le Lt. Colonel Scharroo, (1924), de Merel,
Daam Fockemalaan, 81, Amersfoort.
le baron A. Schimmelpenninck van der
Oye, (1925), Hoog Duin en Daalsche
weg 92, Bloemendaal.
- ✓ ○ Hongrie.....le comte Geza Andrassy, (1907), 42, Esz-
terhazy utca, Budapest, VIII.
le sénateur Jules de Muzsa, (1909),
IV, Egyetem - ter 5, Budapest.



911203

162 - 2 -

Comité International Olympique
(23 Juin 1894)

Fondateur: Mr. le Baron Pierre de Coubertin
Président d'Honneur des Jeux Olympiques

Siège social: Lausanne (Suisse)

Président: Mr. le Comte de Baillet-Latour

MEMBERES:

- ✓ Allemagne.....M.M.
X S. E. le Secrétaire d'Etat Lewald (1924), 422 E
Admiral von Schröderstrasse, 22,
Berlin W35.
S. A. S. le duc Adolphe Frédéric de Meck-
lenburg-Schwerin (1926), Villa Féodo-
ra, Bad Doberan, Schwerin.
X le Dr. Karl, Ritter von Halt, (1929)
Richildenstr., 65, Munich.
- ✓ Amérique Centrale..P. J. de Matheu, (1918), 66, Av. Mozart
Paris (XVI^e).
- ✓ ○ Argentine.....R. C. Aldao, (1923), 530, Avenida Roque
Saenz Pena, Buenos Aires.
Horacio Bustos Moron, (1932), Victoria,
434, Buenos Aires.
- ✓ Australie.....X James Taylor, (1924), Dalton House.
Pitt Street, Sydney, N. S. W.
X Sir Harold Laxton, (1933), 119, Eliza-
beth street, Melbourne.
- ✓ Autriche.....le Dr. Théodore Schmidt (1928), Gloriet-
tegasse, 11, Vienne XIII.
- ✓ ○ Belgique.....le comte de Baillet-Latour, (1903), 23,
rue du Trône, Bruxelles.
le baron de Laveleye, (1919), 65, rue de
la Vallée, Bruxelles.
- ✓ ○ Brésil.....S. E. R. de Rio Branco, (1913), Ministre
du Brésil, Berne, (Suisse).
Arnaldo Guinle, (1923), 107, Av. Rio
Branco, Rio de Janeiro.
le Dr. Ferreira Santos, (1923),
Caixa Postal 2708, Sao Paulo.
- ✓ Bulgarie.....S. E. Stephan G. Tchaprachikov (1929),
Sybelstrasse, 38, Charlottenburg -Ber-
lin (Allemagne).
- ✓ Canada.....X J. G. Merrick, (1921), 14, Deer Park
Crescent, Toronto.
Sir George Mc. Laren Brown (1928), 62
Charing Cross, Londres S. W. 1.



911203

162 - 1 -

I-0487

- ✓ Suiss.....le baron Godefroy de Blonay, (1899),
château de Grandson, (Vaud).
- ✓ Tchecoslovaquie.....le Conseiller Jiri Guth-Jarkovsky, (1894),
4, Priona ul., Prague.
- ✓ Turquie.....Rechid Saffet Bey, (1933),
10-18, Adalet-Han, Galata, Istanbul.
- ✓ ○ Uruguay.....le Dr. F. Ghigliani, (1921), 1270, av. 18
de Julio, Montevideo.
- ✓ X Yugoslavie.....le Général S. S. Djoukitch, (1912),
Sarayevo.
le Professeur Dr. ^{Fr.} Bucar, (1920), Mi-
hanoviceva, 20/II, Zagreb.

✓ Irlande
✓ Italie
✓ Japon
✓ Canada

Spa
Grèce
Hongrie
Egypte
Argentine
Brésil



911203

165

- 4 -

- ✓ Inde.....X G. D. Sondhi (1932), 6, Kacheri Road,
Lahore.
- ✓ Etat libre d'Irlande J. J. Keane, (1922), 68, Upper O'Connell
street, Dublin.
- ✓ ○ Italie.....L'hon. Carlo Montu, (1913), Villa Montu,
Bellagio (Como).
le comte Bonacossa, (1925), 1, Piazza
Sta Maria delle Grazie, Milan.
le comte Paolo Thaon de Revel, (1932),
Podestat de Turin.
- ✓ ○ Japon.....le professeur Jigoro Kano, (1909), séna-
teur, 1, Koishikawacho, Koishikawa-
ku, Tokio.
S. E. le Dr. Yotaro Sugimoura, (1933),
Ambassadeur du Japon, 260, Viale
Regina Margherita, Rome.
le comte Michimasa Soyeshima, (1934),
Uyehara, Yoyogi, Tokio.
- ✓ Lettonie.....J. Dikmanis, (1926), Marijas Iela, 56-58,
dz, 25, Riga.
- ✓ ○ Mexique.....l'Ing. Marte R. Gomez, (1934), Palacio
Nacional, Mexico D. F.
- ✓ Monaco.....le comte Gautier-Vignal, (1908), la Berlu-
gane, Beaulieu s/Mer, (Alpes Maritimes).
- ✓ Norvège.....Thos Fearnley, (1927), 6, Kongens Gate,
Oslo.
- ✓ Nouvelle-Zélande.....le Dr. A. E. Porritt, (1934), 27 Harley
street, Londres, W. I.
- ✓ ○ Pérou.....X S. E. Alfredo Benavides, (1923),
Ministre du Pérou, 65, Cadogan Square,
Londres, S.W.I.
- ✓ ○ Pologne.....S. E. M. Ignace Matuszewski, (1928),
Ministre des Finances, Varsovie.
X le général Dr. Rouppert, (1931), Chef du
Département Sanitaire, Ministère de la
Guerre, Varsovie.
- ✓ Portugal.....le comte de Penha-Garcia, (1913), 16, p.
de Rio-de-Janeiro, Lisbonne.
- ✓ Roumanie.....Georges A. Plagino, (1908), 16, Strada
General Praporgescu, Bucarest.
- ✓ Sud-Afrique.....Henry Nourse, (1920), P. O. Box, 126,
Johannesburg, Transvaal.
- ✓ Suède.....le comte Clarence de Rosen, (1900),
Parkvägen 34, Djursholm (Suède).
X J. S. Edström, (1920), Vesteras.



911203

164

- 3 -

I-0487

情報部長



第二課長



情報三課

大臣

陳

情

書

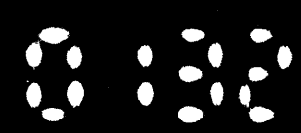


911203

166



I-0487



陳 情 書

古代希臘ノ体育理想タル肉体的完成ト純眞勇壯ナル精神ノ尊重ヲ復活シ、國際競技ノ舉行ニ依ツテ國際親善ヲ増進シ、世界ノ平和ニ貢獻セントスルコトヲ目標トシタオリムピツクムーヴメントガ、世界ノ文化ニ如何ニ偉大ナル貢獻ヲ爲シタカハ茲ニ私ノ喋々ヲ要シナイ處デアリマス此ノ國際文化事業ノ最高峰ニアル國際オリムピツクノ第十二回大會ハ恰カモ皇紀二千六百年ノ祝典ニ際會シテ居リマスノデ、若シ之ヲ我國ニ於テ舉行スルコトガ出來レバ、我國ノ文化ヲ汎ク全世界ニ紹介スルニ止マラズ、國家的祝典ノ意義モ一層深キモノガアルト確信スルモノデアリマス

日本ノナシヨナル・オリムピツク・コムミテータータル大日本体育協會ハ東京市ノ協力ヲ得テ同大會ノ日本開催方ヲ奔走中デアリマシタガ、同大會開催地ノ有力ナル競争國デアツタ伊太利ハ、ムツソリニ首相ガ、日本ノ國家的祝典ヲ慶賀スル意味ニ於テ、武士道的好意ヲ以テ其ノ開催ヲ辭退スルコトヲ表明シ、爲メニ東京開催ハ俄然有望トナツタ次第デアリマ

ス

而シテ現在此第十二回國際オリムピツク大會開催地ノ最後の決定ハ、二月二十五日ノオスロ―會議デ爲サレルノデアリマスガ、此ノ會議ヲ前ニシテ世界各國ハ、會場ヲ東京ニ指定スルコトノ趣旨ニ於テハ何レモ賛成シツ、アルガ、實際問題トシテ距離遠隔ニ依ル旅費巨額ノ爲メ無條件賛成ヲ躊躇シツツアル狀態ニアリ、之ニ乗ジテフィンランド其他列國間ニ猛烈ナル主催地獲得運動ガ起ツテキル狀態デアリマス。之ヲ我國ニ有利ニ展開セシムル爲メ東京市會ハ、先般各國派遣代表ノ旅費補助トシテ金壹百萬圓支出ノ建議ヲ滿場一致決定シマシタガ參加代表多數ノ爲メ之レノミニテ不足ノ場合ハ、同大會ノ國家的並國際的意義ニ鑑ミ、國家トシテモ相當額ノ旅費補助ヲ支出スルト共ニ、同大會ガ東京ニ開催サル、場合ハ、舉國一致ノ力ニ依リ從來會テ見ザル成果ヲ收メ得ルヤウ特別ノ御配慮ニアツカリ度此段懇請致ス次第デアリマス

敬 具

昭和拾年貳月拾六日



911203

168



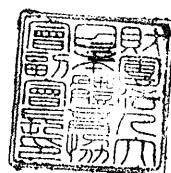
911203

167

I-0487

外務大臣廣田弘毅閣下

財團法人大日本体育協會副會長
平沼亮



911203

169

I-0487

0034

電 信 案		電 信 課 長		主 管		主 任		昭 和 十 年 二 月 十 一 日 起 草	
外 務 省		人 事 課 長		在 伊 國		杉 村 大 使		廣 田 大 臣	
託 同 市		件		宛		件 名 件 録 記		發	
十四日東京より貴官に、オリムピアに因る事務を囑		第一		四 號		オスロ議決後許可件		廣 田 大 臣	
貴電第二二號、件許可		暗		電 送 第 1742 號		昭 和 十 年 二 月 十 一 日 前 後		15 05	
次官		情報部長		會計課長		文書課長		次官	

19.3.11 付文

I-0487

寫送先

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和10

二五一〇

平

羅馬
本省

二月十六日後着

人

廣田外務大臣

杉村大使

第二四號

往電第一七號ニ關シ

副島伯其ノ後回復拂々シカラス醫師ノ意見ニ依リ當地ニテ引續キ療養ノ上三月二日「ナポリ」出帆ノ靖國丸ニテ御簾野同伴歸朝ニ決ス

外務省



91120-3

171

I-0487

文書課長

文書課發送 昭和拾年貳月拾九日發送

淨書

正校(原稿) 淨書

主 管

主 任

昭和十年二月十八日起草

報 告

第一五八號

日附 附屬

18 166

受 信 人 名

牛塚東京市長

發 信 人 名

天羽部長

件 名

副島伯ノ容態ニ関スル件

記 録 件 名

副島伯其後ノ容態ニ関シ在伊村大使來電

寫別紙一通送付ス

(在伊村大使來電ニ付
寫別紙一通送付)

公 信 案

外 務 省

S

911203

172

I-0487

電信寫

十八日電信
又々

明治

平羅馬昭和十年二月十六日發
本番 二月十六日發

廣田外務大臣宛

在伊杉村大使電信寫

第二回號

往電第一十號ニ關シ

副島伯其ノ後回復拂々シカラス醫師ノ意見ニ依リ當地ニテ引續キ療
養ノ上三月二日「ナポリ」出帆ノ靖國丸ニテ御簾野同伴歸朝ニ決ス

S

911203

173

I-0487

0:35

電信寫

手紙

三

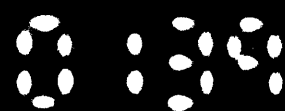
昭和四十九年二月二十五日
廣田外務大臣宛
本 省 二月十九日午後
在馬場 杉村大使宛
二十日發 維納伯林經由「オスロ」ニ出張ス



911203

174

I-0487



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 文人 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和10 二六五八 2.20 平 羅馬 本省 二月十九日後着 情二
廣田外務大臣 杉村大使
第二六號
東京市長へ
「オスロ」會議ニ鶴岡ヲ同伴ス

外務省



91120-3

176



昭和十年二月十九日在羅馬杉村大使發廣田外務大臣宛來電寫
二月二十日發維納及伯林經由「オスロ」ニ出張ス

外務省



911203

175

I-0487



電信寫

子
三
三

新
章

日

空
三
部

昭和
本
羅馬
二月十九日後發
情
喜多

廣田外務大臣
在羅馬杉村大使宛

東京市長へ左記の如く
「オスロ」會議ニ鶴岡ヲ同伴ス

S

911203

177

I-0487

044

寫送先

東亞米通條約文化調查會
秘書官

大臣
次官

電信課長

1.12.0.9

外務省

昭和10 二六一二 2.20
紐育 十八日後發 情、文化
本省 二月十九日前着
廣田外務大臣
澤田總領事
第四〇號
貴電合第一一一號及在米大使宛貴電第三九號ニ關シ
同大使ト相談ノ上十八日「シエリル」ニ面會篤ト日本側ノ希望ヲ傳
ヘテ其ノ盡力ヲ依頼シタル處「シエ」ハ「オスロ」投票ハ本月二十
五日頃行ハル筈ニテ自分ハ到底間ニ合ハサルヘク其ノ場合ニハ電信
ヲ以テ投票スル様依頼電ニ接シタルモ電信投票ハ惡例ヲ殘スニ鑑ミ
從來之ヲ認メサルコトトナリ居ルニ依リ（尤モ自分丈ニハ之ヲ許ス
ヤモ知レスト附言セリ）結局自分ハ棄權スルコトトナルヘシト答ヘ



911203

179



昭和十年二月十九日在羅馬杉村大使發廣田外務大臣宛來電寫
東京市長ヘ左記御傳ヘアリタシ
「オスロ」會議ニ鶴岡ヲ同伴ス

外務省



911203

178

I-0487

タルヲ以テ假令貴下ニ於テ業權ノ場合ニモ他國委員ニ於テ日本側希
望ヲ支持スル様盡力アリタキ旨ヲ述ヘタルニ「シエ」ハ伊國側ニ於
テ讓歩方言明シタルハ甚タ好都合ニテ尤モ委員會トシテハ如何ナル
問題ニ付テモ將來ノ豫約（四四年伊國開催方等）ヲ爲スコトハ許サ
サルコトト爲リ居ルモ之ハ内規ニ過キサルヲ以テ今回ノ委員會ニテ
適宜ニ處理方困難ナラサルヘシ只投票ニ付テハ「ジユリー」ノ一人
トシテ何等約束シ得サルコト繼承アリタキ旨ヲ答ヘタリ
同人ハ頻リニ故珍田伯及石井子爵等トノ舊交ヲ語り其ノ著書 Have we
a far eastern policy 中ノ日本庭園ニ關スル一章ハ今春渡日ノ
「ガーデン、クラブ」會員ノ指針トシテ配布ノ爲拔萃印刷方當地「
ジャパンソサエティ」ニ於テ配慮中ナル由ヲ述ヘ居リタル等ニ鑑ミ

S

911203

180

外務省

大体不利ニハ取計フコトナカル様思ハシメタルカ東京開催援助方確
約シタルニ非サルヲ以テ安心ハ許ササルヘキモ不取敢
瑞典ヘ轉電シ米ニ暗送セリ

S

911203

181

外務省

I-0487

電信寫

寫一

廣田外務大臣宛

電報

電報

電報

電報

二月十九日午前着

電報

在紐西蘭田總領事宛電報

電報合第一一號及在米大使宛電報第三九號ニ関

電報

電報

電報

二月十九日午前着

電報

ヘテ業々盡力ヲ依頼シタル處「シエ」ハ「オスロ」投票ハ本月二十

五日頃行ハル管キチ自分ハ到底間ニ合ハサルヘク非ハ場合ニハ電信

ヲ以テ投票スル様依頼電ヲ接シタルモ電信投票ハ惡例ヲ殘スハ外ニ

從來之ヲ認メサルコトナリ居ルニ依リ（尤モ自分丈ニハ之ヲ許ス

ヤモ知レスト附言セリ）維屬自分ハ棄權スルコトトナルヘシト答ヘ

タルヲ以テ假令其下ニ於テ棄權ノ場合ニモ他國委員キ於日本側希

望ヲ支持スル様盡力アリタキ旨ヲ述ヘタルニ「シエ」ハ伊國側キ於

於讓歩方書明シタルハ甚々好都合キテ尤モ委員會トシテハ如何ナル

問題キ付テモ將來ノ豫約（四四年伊國開催方等）ヲ爲スコトハ許サ

サルコトト爲リ居ルモ本ハ内規ニ過キテ以テ今回ノ委員會ニテ

適宜ニ處理方困難ナラサルヘシ只投票ニ付テハ「ジュリー」ノ一人

トシテ何等約束シ得サルヲ諒承アリタキ旨ヲ答ヘタリ

同人ハ類リニ故珍田伯及石井子爵等トノ舊交ヲ語リ其ノ書書

a far eastern policy 中ノ日本庭園ニ關スル一章ハ今春渡日ノ

「ガーデン・クラブ」會員ノ指針トシテ配布ノ爲拔萃印刷方當地「

ジャパンソサエテイ」ニ於テ配慮中ナル由ヲ述ヘ居リタル等ニ鑑ミ

S

911203

183

S

911203

182

I-0487

電信寫

大休不利ニハ取計フコトナカル様思ハシメタルカ東京開催援助方確
約シタルニ非サルヲ以テ安心ハ許ササルヘキモ不取敢
瑞典へ轉電シ米ニ暗送セリ



911203

184

I-0487

045

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
文書
會計
秘書官

電信課長

昭和10 二六六一

2. 20 暗

伯林
本省

十九日後發
二月十九日 着

情二

廣田外務大臣

第三六號

武者小路大使

貴電合第一一一號ニ關シ（國際「オリンピック」東京招致ニ關スル件）

十八日獨逸「オリンピック」委員會總裁「レイワルド」ト會談シタルニ一九四〇年「オリンピック」ヲ東京ニ於テ開催スルト同時ニ建國記念世界博覽會ヲ催スヘキ計畫アルトノ報行ハレ居ルモ右ハ「オリンピック」ヲシテ博覽會ノ附屬物化セシムル懼アリ萬國「オリンピック」委員會ニ於テ絶對反對ナルヘキ旨語り居タリ杉村大使二十

寫送先

外務省

二日當地通過「オスロウ」ヘ向ハルヘキニ付右ニ關スル説明振至急御回電請フ

外務省

S

911203

186

S

911203

185

I-0487

回車、各機加311

電信寫

東京市
清水氏三子
有
田子
田子
田子

秘

ア
シ
ア
ン
Olympic 5:4117
11 2+1人から
うん人から225子

Olympic 18x248
18 71200 1171

St Louis
Interest 7277111
10万 7244841
722117 722 6.757
入1171
杉村

二日當地通過「オスロウ」へ向ハルヘキニ付右ニ關スル説明振至急
御回電請フ

昭和十九年二月十九日
廣田外務大臣
第三本號
貴電合第一一號ニ關シ「國際「オリンピック」東京招致ニ關スル件」
十八日獨逸「オリンピック」委員會總裁「レイワルド」ト會談シタ
ル#一九四〇年「オリンピック」ヲ東京ニ於テ開催スルト同時ニ建
國記念世界博覽會ヲ催スヘキ計畫アルヲ「報行ハレ居ルモ右ハ「オ
リンピック」ヲシテ博覽會ノ附屬物化セシムル懼アリ萬國「オリ
ンピック」委員會ニ於テ絶對反對ナルヘキ旨語り居タリ杉村大使二十
日ハ

S

911203

188

S

911203

187

I-0487



昭和十年二月十九日在柏林武者小路大使發廣田外務大臣宛來電寫

國際「オリンピック」東京招致ニ關シ二月十八日獨逸「オリンピック」委員會總裁「レイワルド」ト會談シタル處「レイワルド」氏ハ一九四〇年東京ニ於テ國際「オリンピック」ヲ開催スルト同時ニ建國記念世界博覽會ヲ催スヘキ計畫アル旨ノ報道行ハレ居ルモ右ハ「オリンピック」ヲシテ博覽會ノ附屬物化セシムル懼アリ萬國「オリンピック」委員會ニ於テ絶對反對ナルヘキ旨語リ居タリ就テハ杉村大使ハ二月二十二日當地通過「オスロウ」ヘ向ハルヘキニ付至急右ニ關スル説明振至急御同電請フ

外務省



911203

189

I-0487



寫送先

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 人文 社會 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和10.1.20.9

第一七號
貴電合第一一一號ニ關シ
葡國「オリンピック」委員「ベナ、トルシア」伯爵（國際聯盟葡國代表）ハ本日本官ニ對シ本月廿五日「オスロー」開催ノ委員會ニ於テ葡國側ハ一九四〇年東京開催ニ同意スル旨決定シ既ニ「ボード」ヲ書面ニテ發送シタル旨通告シ來レリ
佛、瑞典ヘ轉電シ、英、白、獨、伊ヘ郵報セリ

廣田外務大臣

限部代理公使

昭和10.2.21
里斯ボン
本 省
二月廿一日前着

情

外務省

S 911203

193

TOKYO MUNICIPAL INFORMATION OFFICE

TEL. MARUNOUCHI (23) 4096 & 4097

東京市役所内
市設案内所

東京・丸の内
東京市役所内

丸の内線
丸の内線
丸の内線

日本ノ國カウ見レバオリニビツト博覧會ヲ同時ニ開クコト
ハオリニビツトニ益アリ投ナレ。オリニビツトヲ單ニ開クハ
多クハ東京附近ノ人集マレド博覧會ト同時ニ開クハ
博覧會ノ為集マリタル地方ト近キ外國ノ人ヲオリ
ニビツトニ呼ガコト出來ル
東京市役所内
市設案内所
近キ日本ノ競技場（新国立）ニナレハ「ナチス」主ナラテ
六七萬ノ觀衆集マル故新ニ計畫中（ナチス）スタヂウム
ノ十五萬ノ席ハ（ナチス）容易ニニハシサレルナラン

S 911203

192

I-0487

電信寫

秘

寫
三
部

在リスボン「限部代理公使」宛
廣田外務大臣宛電報（三月廿一日）寫「限部代理公使」

「ホルトガル」國

「オリンピック」委員「ベナトルシア」伯爵「ハートマン」氏在

ハ本日本官ニ對シ本月廿五日「オスロー」開催ノ委員會ニ於

テ「オリンピック」大会ヲ準備スル事ニ同意スル事決定シ既ニ「

一九四〇年「オリンピック」大會ノ開催スル事決定シ既ニ「

「オリンピック」大會ノ開催スル事決定シ既ニ「

S

911203

194

I-0487

051

在「リスボン」隈部代理公使發廣田外務大臣宛電報（二月二十一日）
着）寫

「ボルトガル」國「オリシビツク」委員「ベナ・トルシア」旧尉ハ
本日本官ニ對シ「ボ」國側ハ本月二十五日「オスロー」開催ノ委員
會ニ於テ一九四〇年「オリシビツク」大會ヲ東京ニ開催スルニ同
意スルコトニ決定シ既ニ書面ニテ投票ヲ發送シタル旨通告シ來レリ

外務省

8. 12



91120-3

195

I-0487

050

21 05

文部省

第一課長

暗

電送第 1908 號

昭和10年2月21日 午後 時 分 發

件 宛

在獨
武者小路大使
オリムピア東京招
致1件

名件録記

發
廣田 吉良

管主
情報部長

任主
第二課長

昭和十年二月廿一日起草

文部省
10.2.28
第1課

電信案

外務省

東京市側ト打合セタル間ニ
十五万人ヲ容ルルスタジアムノ設計完了ニ付
貴電ヲ三六号ニ付テ

(原議用紙乙)

電信案

外務省

ハ外 近日中貴象兩院ニ於テオリムピアニ經
費補助建議案通過確案ナルニ付協定会
ハ未如具條的計畫熟シ居ラズ兩者互ニ何事
實際無キハ勿論從屬關係ノ如キハ思ヒ
寄ラザル趣ニ外近年本部「スポーツ」熱ノ
高進ニ鑑ミ協定会ト同時ニ開催セバ觀衆反
響激増ノ結果ヲ来スベキヲ以テ篤ニ説明相

S

911203

197

S

911203

196

(記)

I-0487

電信案

外務省

成文
杉村大佛
人長
山内相
成文

(原議用紙乙)



911203

198

I-0487

054

情報部

第二課長

昭和拾年 参月拾八日接受

普通第五号

昭和十年二月二日

在瑞西

特命全權公使

堀田正昭

外務大臣 廣田弘毅殿

勞山市ノオリンピックノ開催地候補申出

ニ関スル件

今般當國勞山市ヨリ當地外交團宛回章ヲ以テ同市
カオリンピックノ國際委員會ニ宛テテ書翰寫送付シ奉ント
共ニ右ノ各國政府ニ傳達方要請有之 右附原書翰
ハ來ル一九四四年舉行ノオリンピック第十三回オリンピック大會ヲ

在瑞西日本公使館

S

911203

199

勞山市ニ於テ開催シ度旨ノ候補ノ申立セシメ処委細ハ別
紙同回章及書翰寫ヲ以テ御了承ノ上右可然御取計
相煩度

在瑞西日本公使館

S

911203

200

I-0487

Certains de l'appui des autorités, interprètes du désir ardent de la population lausannoise unanime, nous avons l'honneur de vous renouveler notre demande, d'autant plus qu'il semble malaisé de dissocier, la même année, la commémoration du cinquantenaire du Comité International Olympique de la célébration des Jeux, une manifestation pouvant porter préjudice à l'autre.

D'autre part, la ville de Lausanne, comme siège du Comité International Olympique, serait heureuse de recevoir les athlètes du monde entier et, quoique n'étant pas une grande ville, vous pouvez être certains d'y trouver une très grande sympathie et des marques de cordialité de toute la population, ainsi que toutes les installations, tous les aménagements et toutes les dispositions nécessaires à la célébration des Jeux. D'ailleurs celle-ci, sans amputation de programme, bien entendu, se fait envisagée peut-être un peu plus simplement que ce ne fut le cas lors de la célébration de plusieurs Olympiades dans des villes fort importantes, car l'on se propose d'élaborer un programme de manifestations à la fois des plus dignes et grandioses, quoique simple.

Tout ceci est projet d'avenir; pour le moment, nous avons l'honneur de poser à nouveau la candidature de la ville de Lausanne pour l'organisation des Jeux Olympiques de 1944 et nous vous certifions que toutes dispositions seront prises pour que cette célébration, comme celle de son cinquantenaire, soient dignes du Comité International Olympique. En outre, les terrains

./.

nécessaires à la construction du stade olympique sont déjà acquis et propriété municipale, et un "fonds olympique" a été constitué pour faciliter l'organisation de ces Jeux. Vous n'ignorez pas non plus que la ville de Lausanne, possédant plus d'hôtels que beaucoup de grandes capitales qui ont déjà organisé les Jeux Olympiques, peut offrir aux participants et visiteurs des logements très confortables et en suffisance; la réputation des hôtels, pensionnats et pensions de notre ville n'est plus à faire. Signalons enfin que, de par sa situation au centre de l'Europe et ses voies de communication rapides, Lausanne peut être facilement atteint de tous les continents.

En formant des vœux pour la prospérité du Comité International Olympique et pour le succès de sa session à Oslo, comme pour celui des Jeux de la XI^{me} Olympiade en 1936, nous vous présentons, Monsieur le Président et Messieurs, l'expression de notre considération distinguée.

POUR LA MUNICIPALITE DE LAUSANNE :

Le Syndic :

A. Maret

Le Secrétaire:

J. Blanc

Lausanne, le 5 février 1935.

olympiade à venir. C'est d'ailleurs dans cette ville qu'en 1915 le siège du Comité International Olympique fut définitivement transféré, en accord avec les pouvoirs fédéraux et cantonaux, la Commune de Lausanne ayant mis gracieusement à disposition du secrétariat du Comité International Olympique et du Musée olympique les locaux nécessaires à ces institutions.

Plus tard, Lausanne eut l'honneur de recevoir, en 1919, au lendemain de la guerre, le Comité International Olympique, pour sa session qui coïncida avec son 25^{me} anniversaire. Notre ville commémora dignement cette date en organisant de grandes fêtes, auxquelles participa le Président de la Confédération helvétique. En 1921, c'est de nouveau à Lausanne que se tint le Congrès olympique.

Alors que, en décembre 1924, au lendemain des Jeux de la VII^{me} Olympiade à Paris, la Hollande semblait éprouver quelque embarras à organiser les Jeux de 1928 confiés à la ville d'Amsterdam, Lausanne se mit à la disposition du Comité International Olympique pour se substituer en cas de nécessité à Amsterdam et lui fit parvenir tout un dossier de plans et diverses notices. L'appui des autorités cantonales et fédérales, ainsi que celui du Comité Olympique Suisse, lui étaient assurés.

Le 7 mai 1925, la Municipalité de Lausanne pria M. Godefroy de Blonay de confirmer au Comité International Olympique, lors du congrès de Prague, la candidature de Lausanne pour la célébration d'une prochaine olympiade. Elle

./.

écrivait : " Quoique Lausanne ne possède pas les moyens dont disposent les grandes capitales, il nous a paru, qu'étant le siège du Comité International Olympique, c'était pour elle un devoir et un honneur de poser sa candidature".

Dès lors, la ville de Lausanne confirma à plusieurs reprises cette demande et apprit avec une très grande satisfaction que le Comité International Olympique avait porté sur elle, soit sur son siège, son choix comme lieu de célébration de son cinquantenaire en 1944.

Signalons encore que, ces dernières années, notre cité fut très heureuse de recevoir à plusieurs reprises les membres de la Commission Exécutive du Comité International Olympique et, en 1929, le Comité International Olympique lui-même, pour l'une de ses sessions annuelles. La Municipalité de Lausanne accueillit aussi très fréquemment le Comité Olympique Suisse, dont le siège est également à Lausanne.

Les renseignements ci-dessus sont des preuves évidentes de l'intérêt constant que la ville de Lausanne a porté à la cause olympique.

En mai 1934, la Municipalité de Lausanne avait l'honneur de confirmer au Comité International Olympique, à l'occasion de sa session d'Athènes, qu'elle était prête, non seulement à commémorer le cinquantenaire du Comité International Olympique, mais aussi à célébrer les Jeux de la XII^{me} Olympiade en 1944.

./.

C o p i e

VILLE DE LAUSANNE

Canton de Vaud (Suisse)

Messieurs les Membres du Corps diplomatique,

Nous avons l'honneur de vous communiquer en annexe le texte de la lettre par laquelle la ville de Lausanne confirme au Comité International Olympique sa candidature pour la célébration des Jeux de la XIIIe Olympiade coïncidant en 1944 avec le 50me anniversaire de la rénovation des Jeux Olympiques.

Connaissant le vif intérêt que tous les gouvernements portent à l'Olympisme, nous vous prions de donner connaissance de cette lettre à celui que vous représenter, et vous en remercions à l'avance.

Nous espérons avoir l'honneur de recevoir, en 1944, les athlètes de votre pays, et vous présentons, Messieurs les Membres du Corps diplomatique, l'expression de notre considération distinguée.

Le 5 février 1935.

Le Syndic

A. Maret

Le Secrétaire

J. Blanc

C o p i e

VILLE DE LAUSANNE

(Canton de Vaud (Suisse))

Monsieur le Président et Messieurs les Membres
du Comité International Olympique,

O S L O .

Monsieur le Président et Messieurs,

En complément des démarches déjà effectuées depuis longtemps auprès de vous, nous avons l'honneur de vous confirmer la candidature de la Ville de Lausanne pour l'organisation des Jeux de la XIIIe olympiade, coïncidant avec le cinquantième anniversaire de la rénovation des Jeux et la création du Comité International Olympique.

Déjà dès 1910-1911 un mouvement d'opinion s'est fait jour à Lausanne en vue d'y célébrer les Jeux Olympiques. C'est alors que MM. Monod et Laverrière, architectes à Lausanne, amis de l'illustre rénovateur des Jeux Olympiques, ont conçu les plans d'une "Olympie moderne", qui reçurent une médaille d'or aux concours d'art des Jeux de la Vme Olympiade, à Stockholm, en 1912. Puis, en 1913, Lausanne, ayant l'honneur d'être le siège d'un congrès olympique, se mit à la disposition du Comité International Olympique pour organiser les Jeux d'une

./.

I-0487

0 5 8

Certains de l'appui des autorités, interprètes du désir ardent de la population lausannoise unanime, nous avons l'honneur de vous renouveler notre demande, d'autant plus qu'il semble malaisé de dissocier, la même année, la commémoration du cinquantenaire du Comité International Olympique de la célébration des Jeux, une manifestation pouvant porter préjudice à l'autre.

D'autre part, la ville de Lausanne, comme siège du Comité International Olympique, serait heureuse de recevoir les athlètes du monde entier et, quoique n'étant pas une grande ville, vous pouvez être certains d'y trouver une très grande sympathie et des marques de cordialité de toute la population, ainsi que toutes les installations, tous les aménagements et toutes les dispositions nécessaires à la célébration des Jeux. D'ailleurs celle-ci, sans amputation de programme, bien entendu, se fait envisagée peut-être un peu plus simplement que ce ne fut le cas lors de la célébration de plusieurs Olympiades dans des villes fort importantes, car l'on se propose d'élaborer un programme de manifestations à la fois des plus dignes et grandioses, quoique simple.

Tout ceci est projet d'avenir; pour le moment, nous avons l'honneur de poser à nouveau la candidature de la ville de Lausanne pour l'organisation des Jeux Olympiques de 1944 et nous vous certifions que toutes dispositions seront prises pour que cette célébration, comme celle de son cinquantenaire, soient dignes du Comité International Olympique. En outre, les terrains

./.

nécessaires à la construction du stade olympique sont déjà acquis et propriété municipale, et un "fonds olympique" a été constitué pour faciliter l'organisation de ces Jeux. Vous n'ignorez pas non plus que la ville de Lausanne, possédant plus d'hôtels que beaucoup de grandes capitales qui ont déjà organisé les Jeux Olympiques, peut offrir aux participants et visiteurs des logements très confortables et en suffisance; la réputation des hôtels, pensionnats et pensions de notre ville n'est plus à faire. Signalons enfin que, de par sa situation au centre de l'Europe et ses voies de communication rapides, Lausanne peut être facilement atteint de tous les continents.

En formant des vœux pour la prospérité du Comité International Olympique et pour le succès de sa session à Oslo, comme pour celui des Jeux de la XI^{me} Olympiade en 1936, nous vous présentons, Monsieur le Président et Messieurs, l'expression de notre considération distinguée.

POUR LA MUNICIPALITE DE LAUSANNE :

Le Syndic :
A. Maret

Le Secrétaire:
J. Blanc

Lausanne, le 5 février 1935.

olympiade à venir. C'est d'ailleurs dans cette ville qu'en 1915 le siège du Comité International Olympique fut définitivement transféré, en accord avec les pouvoirs fédéraux et cantonaux, la Commune de Lausanne ayant mis gracieusement à disposition du secrétariat du Comité International Olympique et du Musée olympique les locaux nécessaires à ces institutions.

Plus tard, Lausanne eut l'honneur de recevoir, en 1919, au lendemain de la guerre, le Comité International Olympique, pour sa session qui coïncida avec son 25^{me} anniversaire. Notre ville commémora dignement cette date en organisant de grandes fêtes, auxquelles participa le Président de la Confédération helvétique. En 1921, c'est de nouveau à Lausanne que se tint le Congrès olympique.

Alors que, en décembre 1924, au lendemain des Jeux de la VII^{me} Olympiade à Paris, la Hollande semblait éprouver quelque embarras à organiser les Jeux de 1928 confiés à la ville d'Amsterdam, Lausanne se mit à la disposition du Comité International Olympique pour se substituer en cas de nécessité à Amsterdam et lui fit parvenir tout un dossier de plans et diverses notices. L'appui des autorités cantonales et fédérales, ainsi que celui du Comité Olympique Suisse, lui étaient assurés.

Le 7 mai 1925, la Municipalité de Lausanne pria M. Godefroy de Blonay de confirmer au Comité International Olympique, lors du congrès de Prague, la candidature de Lausanne pour la célébration d'une prochaine olympiade. Elle

./.

écrivait : " Quoique Lausanne ne possède pas les moyens dont disposent les grandes capitales, il nous a paru, qu'étant le siège du Comité International Olympique, c'était pour elle un devoir et un honneur de poser sa candidature".

Dès lors, la ville de Lausanne confirma à plusieurs reprises cette demande et apprit avec une très grande satisfaction que le Comité International Olympique avait porté sur elle, soit sur son siège, son choix comme lieu de célébration de son cinquantenaire en 1944.

Signalons encore que, ces dernières années, notre cité fut très heureuse de recevoir à plusieurs reprises les membres de la Commission Exécutive du Comité International Olympique et, en 1929, le Comité International Olympique lui-même, pour l'une de ses sessions annuelles. La Municipalité de Lausanne accueillit aussi très fréquemment le Comité Olympique Suisse, dont le siège est également à Lausanne.

Les renseignements ci-dessus sont des preuves évidentes de l'intérêt constant que la ville de Lausanne a porté à la cause olympique.

En mai 1934, la Municipalité de Lausanne avait l'honneur de confirmer au Comité International Olympique, à l'occasion de sa session d'Athènes, qu'elle était prête, non seulement à commémorer le cinquantenaire du Comité International Olympique, mais aussi à célébrer les Jeux de la XII^{me} Olympiade en 1944.

./.

C o p i e

VILLE DE LAUSANNE
Canton de Vaud (Suisse)

Messieurs les Membres du Corps diplomatique,

Nous avons l'honneur de vous communiquer en annexe le texte de la lettre par laquelle la ville de Lausanne confirme au Comité International Olympique sa candidature pour la célébration des Jeux de la XIIIe Olympiade coïncidant en 1944 avec le 50^{me} anniversaire de la rénovation des Jeux Olympiques.

Connaissant le vif intérêt que tous les gouvernements portent à l'Olympisme, nous vous prions de donner connaissance de cette lettre à celui que vous représenter, et vous en remercions à l'avance.

Nous espérons avoir l'honneur de recevoir, en 1944, les athlètes de votre pays, et vous présentons, Messieurs les Membres du Corps diplomatique, l'expression de notre considération distinguée.

Le 5 février 1935.

Le Syndic
A. Maret

Le Secrétaire
J. Blanc

C o p i e

VILLE DE LAUSANNE
(Canton de Vaud (Suisse))

Monsieur le Président et Messieurs les Membres
du Comité International Olympique,

O S L O .

Monsieur le Président et Messieurs,

En complément des démarches déjà effectuées depuis longtemps auprès de vous, nous avons l'honneur de vous confirmer la candidature de la Ville de Lausanne pour l'organisation des Jeux de la XIIIe olympiade, coïncidant avec le cinquantième anniversaire de la rénovation des Jeux et la création du Comité International Olympique.

Déjà dès 1910-1911 un mouvement d'opinion s'est fait jour à Lausanne en vue d'y célébrer les Jeux Olympiques. C'est alors que MM. Monod et Laverrière, architectes à Lausanne, amis de l'illustre rénovateur des Jeux Olympiques, ont conçu les plans d'une "Olympic moderne", qui reçurent une médaille d'or aux concours d'art des Jeux de la Vme Olympiade, à Stockholm, en 1912. Puis, en 1913, Lausanne, ayant l'honneur d'être le siège d'un congrès olympique, se mit à la disposition du Comité International Olympique pour organiser les Jeux d'une

./.

I-0487

051

Deutscher Kanuverband soeben mehrere einwöchige Lehrgänge für Kanufahrer aus dem ganzen Reich abgehalten. Die Bauten sind sämtlich von dem Architekten H. Ruhl entworfen, während die Bauleitung in den Händen des Oberbaurats Sponholz liegt.

Der Radsport bei den Olympischen Spielen

Die im Jahre 1896 noch hart umstrittene Frage, ob der Radsport als olympischer Sport anzusprechen sei, ist im Laufe der Jahrzehnte zu seinen Gunsten entschieden worden. Trotz der im Jahre 1893 ins Leben gerufenen, im Jahre 1895 auch den Berufsfahrern eröffneten Radweltmeisterschaften ist das Interesse an den Wettbewerben bei den Olympischen Spielen im Weltverband der Radfahrer, der Union Cycliste Internationale, rege geblieben. Dies um so mehr, als die Wettbewerbe bei den Olympischen

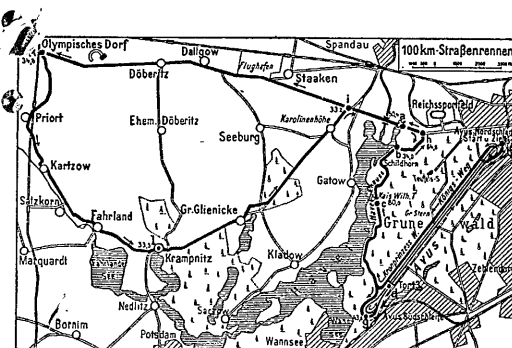


Bild Nr. 62 Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck
Karte der olympischen Radfahrern 1936
Hergestellt vom Reichsamt für Landesaufnahme

Spiele sich von den Wettbewerben bei den Weltmeisterschaften unterscheiden und bestimmten Rennfahrergruppen ein eigenes Betätigungsfeld bieten. Allerdings hat der Weltverband vor kurzem eine Teilangleichung des Olympischen Programms an das der Weltmeisterschaften vorgenommen. Man ist sich nämlich darüber einig geworden, daß das olympische Straßenrennen, das bisher abweichend von den Weltmeisterschaften gegen die Uhr gefahren wurde, künftig mit Massenstart gefahren werden soll. Die Fahrer kämpfen dann also gegeneinander, nicht gegen die Uhr. Ein solches Rennen erfordert eine ganz andere Taktik als wenn ausschließlich auf Zeit gefahren werden muß. Für dieses Straßenrennen hat das Organisationskomitee eine 100 km lange Strecke ausgesucht, die sich von den bisherigen Wettbewerbsstrecken einestils durch den Beginn und das Ende auf einer Autorennbahn, der „Avus“, andernteils durch die Steigung unterscheidet, die sich den Fahrern im ersten und im letzten Teil bietet; auf dem Hinwege und auf dem Rückwege haben die Fahrer nämlich den „Kilometerberg“ am Kaiser-Wilhelm-Turm im Grunewald zu überwinden. Die Steigung ist nicht allzu steil, aber langgedehnt. Vom

Start in der Nordschleife der Avus weg ist zunächst eine volle Runde auf dieser zu fahren (16,7 km), alsdann geht es südwärts für einige Kilometer neben der Avus her, bis dorthin, wo die Straße sich zum Kaiser-Wilhelm-Turm und zum Kilometerberg hinüber wendet. Danach stößt die Strecke auf die Heerstraße, ganz nahe dem Reichssportfeld, und geht auf ihr entlang bis zum Olympischen Dorf, wo sie dann nach links abbiegt und im großen Bogen über Priort - Kartow - Fahrland - Krampnitz - Großglenicke - Karolinenhöhe zur Heerstraße zurückkehrt. Die Fahrer haben dann über den Kilometerberg zurückzukehren und erreichen über die Südschleife der Avus das Ziel vor den Tribünen der Nordschleife. Die Strecke wird von den Radfahrern als gut beurteilt. Mosaikpflaster herrscht vor. Die „Avus“ hat ihre Eignung für Straßenrennen schon mehrfach bewiesen. Neben dem Straßenrennen stehen noch vier Wettbewerbe auf dem Olympischen Programm. Das eine ist ein 100-m-Malfahren, so wie es auch bei den Amateur-Weltmeisterschaften üblich ist, während die drei anderen eine Eigentümlichkeit des olympischen Programms darstellen; es handelt sich nämlich um ein 1000-m-Zeitfahren, ein 2-km-Tandemfahren und ein 4-km-Mannschaftsfahren. Die Belassung des 1000-m-Rennens gegen die Uhr im Olympischen Programm ist wohl den Engländern zu verdanken, die dem Fahren gegen die Uhr im Radsport ihres Landes eine hervorragende Stelle einräumen. Es erfordert auch eine ganz besondere Eignung. Das Malfahren über 1000 m hingegen bietet den Fliegern eine bessere Gelegenheit zur Entfaltung ihrer Kräfte. Auch das Zweisitzerrennen liegt den Fliegern wiederum besser als das Mannschaftsfahren. Dieser als Verfolgungsrennen ausgetragene Wettbewerb stellt hohe Ansprüche an Kraft, Ausdauer und vor allem auch an den Kameradschaftsgeist, da die Gesamtleistung von vier Fahrern gewertet wird. Für die Bahnrennen sind die Tage vom 6. bis 8. August vorgesehen worden, für das Straßenfahren der 10. August, ein Montag. Die Wettfahrbestimmungen der Union Cycliste Internationale sind maßgebend.

Polens Olympia-Kernmannschaften

Die Vorbereitungen des Polnischen Olympischen Komitees für die Aufstellung einer Mannschaft, die im Jahre 1936 für Polen Ehre einlegen kann, sind in vollem Gange. Die jungen Athleten und Athletinnen, die für die Teilnahme in Frage kommen, werden augenblicklich zu sogenannten Kernmannschaften zusammengefaßt und erhalten damit das Recht auf die besondere Obhut des Polnischen Olympischen Komitees und des zuständigen Verbandes. Beim Eintritt in die Kernmannschaft geben sie in feierlicher Form ein Versprechen ab, daß sie sich den Anweisungen und Ratschlägen der Führer und Trainer unterwerfen und sich des in sie gesetzten Vertrauens und der ihnen zuteil werdenden Ehre würdig erweisen wollen. Aus den Mitgliedern der Kernmannschaften, deren Aufstellung vom Olympischen Komitee überwacht wird, werden später die Vertreter

Polens für Garmisch-Partenkirchen und Berlin ausgewählt. Die einzelnen Mannschaften haben folgende Mitgliederzahlen: Leichtathletik bis zu 14 Männern und 4 Frauen, Fußball bis zu 26 Spielern, Boxen bis zu 24 Mann, Rudern bis zu 20 Mann, Fechten bis zu 10 Mann, Reiten bis zu 16 Mann, Eishockey bis zu 15, Ski bis zu 8 und Schießen bis zu 6 Mann.

Für die Abhaltung von Trainingslagern hat das Polnische Olympische Komitee bereits 13 000 Zloty ausgegeben; man hofft für die Zukunft auf eine Unterstützung des staatlichen Amtes für Leibesübungen, das ja auch schon bei der Verpflichtung des Trainers Smith für die Amateurboxer helfend eingesprungen ist.

Schüler als Zuschauer 1936

Die Friesen-Oberrealschule zu Berlin, die im sportlichen Leben in der Reichshauptstadt seit langem einen guten Ruf genießt, pflegt jedes Jahr im März ein Schauturnen zu veranstalten, dessen Ertrag zur Beschaffung von Sportgeräten und zur Unterstützung bedürftiger Schüler bei Schulausflügen und Wanderungen verwendet wird. Dieses Jahr aber haben die Schüler und Lehrer beschlossen, von dem Ertrag ihres Schauturnens 40 RM. abzugeben und dafür einen Olympia-Stadion-Paß zu kaufen. Mit diesem Paß wird dann jeden Tag ein anderer Schüler der Schule den Ereignissen im Stadion beiwohnen und am Morgen, nachdem er dort war, ans Schwarze Brett der Schule einen Bericht über das Erlebte anheften.

Olympische Besucher in Berlin

Unter den ausländischen Sportführern und Journalisten, die zu Anfang des Monats April in Berlin einen Besuch abgestattet haben, um das Reichssportfeld zu besichtigen und sich über die sonstigen Vorbereitungen zu den Olympischen Spielen zu unterrichten, waren die Herren Agne Holmström, Generalsekretär des Svenska Gymnastikförbundet, Stockholm, Miklos Csillag, Generalsekretär des Internatio-

nen Ringerverbandes, Budapest, Charles Denis, Sekretär des Französischen Olympischen Komitees, Paris, Baron Cai Schaffalitzky de Muckadell von der Zeitung „Berlingske Tidende“, Kopenhagen, Dir. Adám Aczél, Budapest, und Peter Jäger, Generalsekretär des Dänischen Olympischen Komitees, Kopenhagen.

Die amtliche Karte zu den Olympischen Spielen erschienen

Das Reichsamt für Landesaufnahme hat in Zusammenarbeit mit dem Organisationskomitee für die XI. Olympiade Berlin 1936 eine Landkarte herausgebracht, die alle für die Besucher der Spiele in Frage kommenden Stätten vom Olympischen Dorf im Westen bis zur Grünauer Regattastrecke im Osten aus dem Berliner Straßennetz besonders heraushebt. Die Karte ist farbig und im Maßstab 1 : 50 000 gehalten, also deutlicher lesbar als die gebräuchliche deutsche Generalstabskarte mit dem Maßstab 1 : 100 000. Die Karte wird vom Reichssportverlag in Berlin-Charlottenburg 2, Hardenbergstr. 43, zum Preise von 0,60 RM. vertrieben.

Der letzte olympische Fußballmeister meldet sich an

Die letzte Eintragung in die Liste der an den Spielen von 1936 teilnehmenden Nationen kommt vom Olympischen Komitee von Uruguay. Diese Nachricht wird besonders in der Fußballwelt das größte Interesse hervorrufen; war doch die Fußballmannschaft von Uruguay olympischer Meister sowohl in Paris 1924 wie in Amsterdam 1928. Bei der Olympiade von Los Angeles 1932 wurde bekanntlich ein Fußballturnier nicht ausgetragen. Bei diesen letzten Spielen hat Uruguay jedoch im Rudern teilgenommen und hier im Skiff-Rennen einen dritten Platz geholt. Auch in der Leichtathletik, im Fechten und im Boxen sind die Vertreter von Uruguay von beachtlicher Stärke, so daß man wohl auf eine sehr kampfkraftige Mannschaft aus diesem Teil Südamerikas rechnen darf.

Komitee und dem Reichssportführer an die nationalen Olympischen Komitees, die die Teilnahme an den Olympischen Spielen 1936 zugesagt haben, gerichtet worden:

„Die Olympischen Spiele bieten mit ihrem Zusammentreffen der besten Sportsleute aller Völker und der Führer des Sports aus der ganzen Welt eine einzigartige Gelegenheit zum Studium der körperlichen Erziehung. Wir beehren uns daher, alle an den Olympischen Spielen teilnehmenden Nationen einzuladen, eine Mannschaft von männlichen Sportstudenten zu den Spielen zu entsenden, die von deutscher Reichsgrenze ab für ihren ganzen Aufenthalt in Deutschland unsere Gäste sein würden.

Die Größe der Mannschaft bitten wir mit 30 Männern festsetzen zu dürfen.

Wir beabsichtigen, diese Mannschaften gemeinsam in soldatisch einfacher Weise unterzubringen und sie entsprechend gemeinsam zu verpflegen.

Das Eintreffen der Mannschaften ist für Donnerstag, den 23. Juli 1936, vorgesehen, die Abreise für Montag, den 17. August.

Die Eröffnung der gemeinsamen Arbeit findet am Freitag, dem 24. Juli, statt. Die Zeit vor den Spielen steht ganz zu gemeinsamer Arbeit zur Verfügung; während der Spiele selbst sollen die Vormittage hierfür dienen, während an den Nachmittagen Gelegenheit zum Zuschauen bei den Olympischen Kämpfen gegeben werden soll. Die gemeinsame Arbeit ist so gedacht, daß zunächst einmal täglich Sport getrieben wird, daß dann die Schulen gegenseitig in kurzen Vorführungen ihre Arbeit zeigen und anschließend Vorträge und Aussprachen stattfinden. Kongresssprache ist deutsch, jedoch sind auch französische und englische Vorträge zugelassen. Selbstverständlich sind auch Ausflüge und Besuche in Berlin und Umgebung vorgesehen.

Die gemeinsame Arbeit würde unter eine einheitliche Leitung gestellt werden. Wir erwarten, daß die für das Gelingen der gemeinsamen Arbeit notwendige Disziplin von allen Gruppen gewahrt wird.

Wir bitten bis zum 31. Mai 1936 um freundliche Mitteilung, ob wir auf eine Annahme dieser Einladung rechnen dürfen. Sobald eine genügende Zahl von Zusagen eingegangen ist, werden wir ein Programm ausarbeiten und es allen Ländern, die uns besuchen, zugehen lassen.

Berlin, den 31. März 1935

gez. Rust
Reichs- und Preussischer Minister
für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung

gez. Dr. Lewald
Präsident des Organisations-Komitees
für die XI. Olympiade Berlin 1936

gez. v. Tschammer
Reichssportführer
Präsident des Deutschen Olympischen Ausschusses

Auch Island kommt 1936 nach Berlin

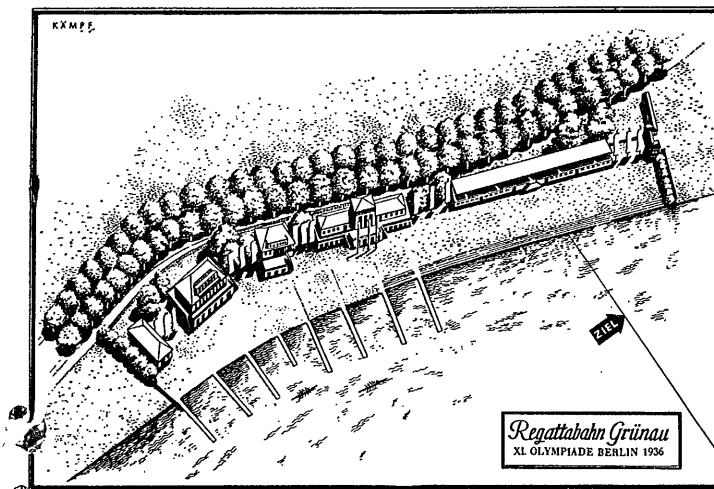
Die Olympische Idee macht auf ihrem Siegeszuge durch die Welt auch vor dem hohen Norden nicht halt. Island hat vor kurzem ein Olympisches Komitee gebildet und dieses vom Internationalen Olympischen Komitee anerkennen lassen, um an den Spielen der XI. Olympiade Berlin 1936 teilnehmen zu können. Das neue Komitee hat die daraufhin ergangene deutsche Einladung soeben angenommen und mitgeteilt, daß es nicht nur für einige Wettbewerbe eine Vertretung zu entsenden, sondern auch eine Besuchsreise von etwa 100 Köpfen auf die Beine zu bringen hoffe. Die direkte Schiffsverbindung zwischen Island und Deutschland erleichtert ein derartiges Unternehmen.

Island war bisher an den Olympischen Spielen von London 1908 und Stockholm 1912 beteiligt und hat dort seinen Nationalsport „Glima“ vorgeführt, ein auf altgermanischer Tradition beruhendes Ringen, das wohl am ehesten dem Schweizer „Schwingen“ verglichen werden kann. Die Kämpfer tragen dazu eine Art Ledergeschirr um Hüfte und Oberschenkel, an denen sie sich fest fassen können. Das kalte Klima des Insellandes und der harte Kampf des nur

etwa 100 000 Köpfe zählenden isländischen Volkes um sein tägliches Brot lassen natürlich die Bedingungen für die Pflege der verschiedenen modernen Sportarten nicht sonderlich günstig erscheinen; jedoch sind in den letzten Jahren die warmen vulkanischen Quellen immer mehr zur Anlage von Schwimmbädern ausgenutzt worden, und auch der Wintersport ist mehr und mehr in Aufnahme gekommen, so daß man wohl von einem allgemeinen Wiedererwachen jener Sportfreude in Island sprechen kann, die auch in der isländischen Dichtung des frühen Mittelalters lebt. Unter jenen kühnen Wikingerfamilien galt am meisten, wer zugleich ein versgewandter Dichter und Athlet war, Meister des Speeres und des Wurfsteins, Ringer und Bogenschütze. Und bereits in der Edda steht ein Gebot, das man jedem Sportsmann von heute nur empfehlen kann:

„Mit Maßen trinke den Met
und meide den Rauschtrank.
Spreche nur, was wertvoll, sonst schweige.
Niemand wird dich beschimpfen,
gehst du beizeiten zu Bett!“

„Eine der schönsten Ruderstrecken der Welt“



Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck

Bestellnummer 61

Das Bild zeigt von links nach rechts die Bootshäuser „Ost“, „Mitte“ und „West“ und die neue Tribüne auf dem Südufer der Dahme bei Grünau nahe der Ziellinie der 2000 m langen Regattabahn. Die Bootshäuser sind von uralten Birken, Eichen und Rüstern überschattet, die durchweg 15-25 m hoch sind. Die Anlage wird so, wie hier dargestellt, für die Europameisterschaften der Ruderer vom 16.-18. August fertiggestellt sein. (Entwurf der Bauten: Architekt H. Ruhl.)

Zwischen bewaldeten Ufern, und doch von der Stadt sehr schnell und leicht durch die elektrische Schnellbahn zu erreichen, liegt der Schauplatz der Olympischen Ruder- und Kanurrennen 1936 — Berlins klassische Regattastrecke auf der Spree bei Grünau. Nach Vollendung der im Gange befindlichen Um- und Neubauten wird sie nach dem Urteil erfahrener Fachleute eine der schönsten und vollkommensten Regattastrecken der ganzen Welt darstellen. Vom Dahme-Ufer hat man während der letzten 100 m vor dem Ziel einen wundervollen Blick auf die gegenüberliegenden bewaldeten Müggelberge; die drei Bootshäuser, die hier errichtet worden sind, und die Zieltribüne, die hier errichtet werden wird, lassen einen breiten, abfallenden Streifen Landes bis zum Wassersaum frei, auf dem sich die Zuschauer ergehen und den Blick genießen können. Insgesamt werden 18 000-20 000 Zuschauer auf der Anlage Platz finden.

Die vor etwa 25 Jahren am Ziel errichtete Tribüne grenzt unmittelbar ans Wasser und hat auch im übrigen viele Nachteile. Das Reich, das dem Besitzer des Geländes, dem Berliner Regattaverein, bereits die Errichtung der beiden neuen Bootshäuser „Ost“ und „West“ möglich gemacht hat, hat jüngst auch noch die Mittel bewilligt, diese Tribüne abzureißen und in der Fluchtlinie der drei Bootshäuser, also weiter rückwärts, in verbesserter Form wieder aufzubauen. Die neue Tribüne wird durch fünf breite Zugänge von der Rückseite her zugänglich sein. Unter den 3000 Sitzplätzen befinden sich 400 Presseplätze, 170 davon mit einem Arbeitspult versehen. In dem massiven Unterbau liegen ein Postamt mit getrennten Abteilungen für Publikum und Presse, Räume für den Tonfilm-Apparate-Wagen und für die Rettungsstelle vom Roten Kreuz, verschiedene Garde-

roben und eine Erfrischungshalle. Mit der Abteilung für die Ehrengäste, die übrigens genau in der Verlängerung der Ziellinie und in der Mitte der Tribüne liegt, sind eine kleine Empfangshalle und ein besonderer Erfrischungsraum verbunden. Vor ihr befindet sich eine durch Treppen von der Wasserseite her erreichbare Plattform, auf der die Sieger-Ehrung vorgenommen werden kann.

Das Bootshaus „West“, das sich ostwärts mit 30 m Zwischenraum an die Tribüne anreihet und schon bis zum Verputz gediehen ist, wird das Hauptquartier der Regattaleitung sein. Es enthält auch die Lautsprecherzentrale, von der aus die Zuschauer, sei es der ersten, sei es der zweiten 1000 m, über den Stand des Rennens auf der anderen, ihnen unsichtbaren Hälfte der Bahn unterrichtet werden. Ferner liegen hier die Kabinen der Rundfunksprecher; jede von den vier Nationen, die jeweils ein Boot im Rennen liegen haben, soll nämlich das Rennen durch einen Sprecher schildern lassen können. Der Mittelteil des Hauses enthält den 10 x 10 1/2 m messenden „Ruderer-Saal“ für festliche Gelegenheiten, und schließlich im Erdgeschoß vier Bootshallen und je eine Kantine für die Ruderer und Zuschauer.

Das weiterhin sich anschließende Bootshaus „Mitte“, das schon seit rund 25 Jahren hier steht, ist wie ein normales Klubhaus eingerichtet mit drei Bootshallen, Unterkunfts- und Umkleideräumen.

Das im vergangenen Herbst bereits fertiggestellte Bootshaus „Ost“ enthält sechs 25 m lange Bootshallen, eine Werkstatt und Unterkunfts- und Umkleideeinrichtungen für 160 Ruderer, nebst Duschen, Wasch- und Massageräumen, usw. Hier haben zur Zeit die 22 besten Ruderer aus den verschiedenen Berliner Ruderklubs ihr Trainingslager. Hier hat auch der



Olympia-Pressdienst

Herausgeber: Organisations-Komitee für die XI. Olympiade Berlin 1936, e. V., Berlin-Charlottenburg 2 Hardenbergstraße 43 — Fernruf C 1 Steinplatz 8091 — Druckschrift Olympiade Berlin

OLYMPISCHE SPIELE BERLIN 1936, 1.-16. AUGUST

Nr. 17

Berlin, den 16. April 1935



Als offizielles Plakat der Olympischen Spiele ist ein Entwurf des Künstlers Würbel, Berlin, ausgewählt worden. Es wird mit Inschriften in vielen Sprachen alsbald über die ganze Welt verteilt werden.

Verfügbar als Mater und Photo Bestellnummer 60

Eine entscheidende Schlacht des Friedens

„Die olympische Idee dient der Besinnung auf die ewigen, unzerstörbaren Gesetze des Lebens. Sie spricht die Sprache der Jugend aller Völker. Sie ist die Stimme der Ritterlichkeit und des Charakters in einem rechnenden Jahrhundert. Sie stellt über die Götzen einer rein materiellen Weltanschauung die erhabenen Standbilder eines Ideals.“

„Es ist uns aus der klassischen Zeit des Altertums eine wunderbare Begebenheit überliefert. Als der Perserkönig

Darius sein Heer über den Hellespont gegen die Griechen geführt hatte, schickte er Kundschafter aus. Diese berichteten, zu ihrem Heer zurückgekehrt, die Griechen seien zu Olympia versammelt und opferten den Göttern in friedlichen Wettkämpfen des Leibes und in edlen Turnieren der Künstler. Wenn die Welt die Kundschafter des Sports heute in mein Vaterland schicken wollte, so müßten auch diese Kundschafter erklären, daß Deutschland alle Kräfte einsetzt, seine jungen Leute für den friedlichen Wettstreit

der Jugend der Welt vorzubereiten, und daß es bemüht ist, für die Olympischen Spiele Kampfstätten zu errichten, die der Würde und Größe dieser Veranstaltung entsprechen. Noch nie in der Geschichte der modernen Olympischen Spiele hat sich ein Staatsoberhaupt mit solchem Enthusiasmus und mit so starkem persönlichen Einsatz für die Schaffung der Voraussetzungen zur Durchführung der Spiele eingesetzt, wie es der Führer und Reichskanzler des deutschen Volkes getan hat und noch tut.“

„Am 17. März sprach der Wehrminister des deutschen Volkes vor dem Ehrenmal der Toten des Weltkrieges die

schicksalhaften Worte: „Europa ist zu klein für einen Krieg“, aber — so möchte ich fortfahren — dieses Europa ist groß genug, darin ein Kampffeld abzustecken, auf dem die Jugend der Welt der Sache des Friedens eine entscheidende Schlacht gewinnt. An der Lösung dieser Aufgabe mitzuhelfen, ist der wahrhaftige heilige Wille des ganzen deutschen Volkes. So lassen Sie uns gemeinsam die Sieger im unblutigen Kampf um eine ewige Idee der Menschheit mit dem Ölzweig auszeichnen, der das Symbol des Friedens und der Eintracht ist.“

(Aus Vorträgen des Reichssportführers Hans von Tschammer und Osten.)

Deutschland lädt zum internationalen Jugendtreffen 1936 ein

An sämtliche nationalen Olympischen Komitees, die die Teilnahme an den Olympischen Spielen zugesagt haben, ist soeben vom Präsidenten des Organisationskomitees für die XI. Olympiade und dem Reichssportführer in Gemeinschaft mit dem Jugendführer des Deutschen Reiches folgende Einladung zur Teilnahme an einem internationalen Jugendtreffen in Verbindung mit den Olympischen Spielen 1936 ergangen:

„Während der Feier der XI. Olympiade Berlin 1936 ist die Durchführung eines internationalen Jugendtreffens beabsichtigt.

Wir laden die an den Olympischen Spielen teilnehmenden Nationen ein, je eine Jugendmannschaft von 30 Jünglingen im Alter von 15 bis 18 Jahren unter einem Leiter zu den Spielen zu entsenden.

Die Jugendmannschaften sind ab deutscher Grenze unsere Gäste. Sie werden in der Nähe des Olympia-Stadions untergebracht und gemeinsam verpflegt. Wir sorgen dafür, daß die Jugendmannschaften während der Zeit Gelegenheit zu eigenem Sport haben und die Sehenswürdigkeiten und Schönheiten von Berlin kennen lernen. Ebenso dürfen sie den Olympischen Kämpfen beiwohnen. Die Reise soll so angetreten werden, daß die Mannschaften möglichst einheitlich am Donnerstag, dem 30. Juli 1936, vormittags, hier eintreffen. Die Abreise soll am Montag, dem 17. August, vormittags, erfolgen. Für die Zeit des Aufenthaltes wird ein einheitliches Programm gemacht, so daß sich die Teilnehmer gegenseitig kennen lernen und der Aufenthalt in Berlin zu einem alle Nationen verbindenden Gemeinschaftserlebnis wird.

Wir hoffen, daß wir die Freude haben, eine Jugendmannschaft Ihres Landes zu begrüßen, und bitten, uns möglichst bald mitzuteilen, ob wir auf Ihren Besuch rechnen dürfen. Alles Nähere teilen wir mit, sobald wir Ihre freundliche Zusage haben.

Berlin, den 31. März 1935

gez. Dr. Lewald
Präsident des Organisations-Komitees
für die XI. Olympiade Berlin 1936

gez. v. Tschammer
Reichssportführer
Präsident des Deutschen Olympischen Ausschusses

gez. v. Schirach
Jugendführer des Deutschen Reiches“

Kongreß der Sportschulen 1936

Die deutsche Einladung an die Nationen

Um neben der kämpferischen Seite des Sports bei den Olympischen Spielen auch die erzieherische zu betonen, ist im Organisations-Komitee für die XI. Olympiade und im Deutschen Olympischen Ausschuss schon seit längerem der Gedanke erwogen worden, die Hochschulen für Leibesübungen (Turnlehrer-Bildungsanstalten) der ganzen Welt zu einem sportpädagogischen Kongreß einzuladen. Dieser Gedanke beginnt jetzt Gestalt zu gewinnen mit folgender Einladung, die vom Reichs- und Preussischen Ministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung in Gemeinschaft mit dem Organisations-

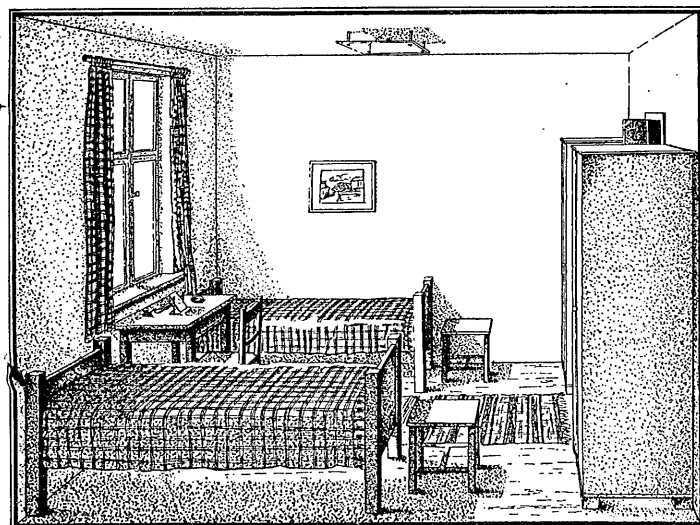
I-0487

gegen z. B. für Schwimmen, Rudern, Segeln, Boxen, Ringen, Turnen, gelten, ist inzwischen so weit vorgeschritten, daß schon für annähernd 300 000 Reichsmark Karten verkauft sind. Seit kurzer Zeit sind in den Vertrieb auch die großen internationalen Reisebüros eingeschaltet, von denen das MER, Wagon-Lits/Cook, Hapag und Lloyd den Verkauf bereits begonnen haben. Soweit die Kartenbestellungen aus dem Ausland kommen, ist der Wunsch zum Besuch der Spiele in den U. S. A. schon jetzt am lebhaftesten, aber auch der alte Erdteil hat durchaus etwas für die Spiele übrig, und besonders tun sich da die nordischen und südöstlichen Länder hervor. In Deutschland sind es keineswegs nur die Berliner, die die Karten kaufen, zumal der Westen des Reiches stellt ein starkes Kontingent. Während die meisten Bestellungen aus der Provinz schriftlich erledigt werden, hat letzthin auch die Grüne Woche, die Internationale Auto-Ausstellung und schließlich die Olympia-Ausstellung zahlreiche Freunde der olympischen Sache persönlich nach Berlin und damit in das Büro der Kartenstelle des Organisationskomitees für die XI. Olympiade, Berlin-Charlottenburg 2, Hardenbergstr. 43, geführt. Die Kartenstelle hat in der Olympia-Ausstellung übrigens einen kleinen Verkaufsstand eingerichtet, in dem auch alle Auskünfte erteilt werden.

Der Vorverkauf der Dauerkarten für die einzelnen Sportarten sowie der Einzelkarten für die Eröffnungs- und Schlußfeier beginnt erst am 1. Juli d. J. Wer jetzt schon Geld für eine dieser Kartenarten einschickt, sichert sich dadurch keinerlei Vorteile.

Postscheckkonto der Kartenstelle: Berlin 115 100.

Bankverbindung: Sponholz & Co., Berlin SW 19.



Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck

Die U. S. A.-Armeereiter üben fürs Olympia 1936

Bereits seit Oktober vorigen Jahres laufen auf Grund eines Befehls des Generaladjutanten im Kriegsdepartement zu Washington in der Armee der Vereinigten Staaten die Vorbereitungen für die reiterlichen Wettkämpfe der Olympischen Spiele Berlin 1936. Trainingszentrum ist Fort Riley, Kansas, die Hochburg der amerikanischen Heeresreiterei. Anfang Mai 1935 werden dort im Rahmen der alljährlichen Pferdeschau der Kavallerieschule vorläufige Ausscheidungswettkämpfe nach dem Muster des Olympischen Programmes abgehalten, um danach die besten Reiter und Pferde der ganzen Armee zu einer „Olympic Squad“ (Olympischen Schwadron oder Staffel) zusammenzufassen, die dann nach einem sorgfältig ausgearbeiteten Plan das Training fortsetzt. Es folgt eine Reihe von Schulungswettbewerben, die außer in Fort Riley auch in Fort Leavenworth und Fort Robinson, Nebr., abgehalten werden, bis das amerikanische Olympische Komitee durch seinen Ausschuss für Reiterei im Frühjahr 1936 wahrscheinlich wiederum in Fort Riley die endgültige Zusammensetzung der Reitermannschaft maßgebenden Ausscheidungswettkämpfe abhält.

Unter den hervorragenden amerikanischen Reitern, die als Kandidaten für 1936 genannt werden, finden wir einige schon von 1932 her bekannte Namen, wie z. B. Hauptmann Hiram E. Tuttle (1932 Dritter der Dressurprüfung) und Leutnant Earl F. Thomson, der damals auf Jenny Camp nach dem Holländer Pahud de Mortanges Zweiter in der Vielseitigkeitsprüfung („Military“) wurde. Ähnlich ist es mit den Pferden, von denen für die Dressur Olympic, für die „Military“ Pleasant Smiles und Jenny Camp und für das Springen um den Preis der Nationen Babe Wartham und Joe Aleshire wieder ins Training genommen worden sind.

Ein Zimmer im Olympischen Dorf

In solchen doppelbettigen Zimmern, von denen jeweils zehn bis zwölf mit einem Gemeinschaftsraum, Waschgelegenheit usw. in einem Hause zusammengefaßt sind, werden die aktiven Teilnehmer der Olympischen Spiele 1936 wohnen.

„Um 5 Lei 1936 nach Berlin“

Unter dieser Devise hat die „Temesvarer Zeitung“ (Banat, Rumänien) zum Jahresbeginn eine originelle Lotterie ausgeschrieben: auf einem Coupon, der täglich aus dem Blatt ausgeschnitten werden kann, verzeichnen die Leser ihren Namen und ihre Anschrift und senden dies zusammen mit 5 Lei — das ist etwa der Wert eines Briefportos — beim Verlage der Zeitung ein. In den 18 Monaten bis zum Beginn der Olympischen Spiele wird auf diese Weise eine stattliche Summe zusammenkommen, aus der für eine Anzahl von Einsendern die Reise nach Berlin finanziert werden kann. Wessen Coupon dann aus der Urne gezogen wird, der kann mitreisen, und je mehr und je öfter die Leser die Coupons einsenden, um so größer wird der Reisefonds, um so mehr können mitreisen und um so höher steigt auch die Chance des einzelnen Einsenders, ausgelost zu werden. Es wird berichtet, daß der Leserkreis der Zeitung schon mit Begeisterung angefangen hat, zu sparen.

Olympia-Jollen überall

In Deutschland ist bekanntlich für die Segelregatta der Olympischen Spiele 1936 ein besonders leistungsfähiges Einmann-Boot neu konstruiert worden. Damit die Segler der ganzen Welt sich rechtzeitig an diesen neuen Bootstyp gewöhnen können, sind die Konstruktionszeichnungen davon den Segelverbänden aller Kontinente zur Verfügung gestellt worden.

Überall wird daher jetzt die neue Olympia-Jolle gebaut. Neuerdings kommt aus Finnland die Nachricht, daß zwei Boote dieses Typs auf Kiel gelegt werden, und in Estland hat sich der Revaler Jagd-Club durch ein geselliges Fest, das einen Überschuß von 1000 Kronen erbrachte, Mittel zu gleichem Tun verschafft. In der Schweiz haben verschiedene Clubs in Zusammenarbeit mit der Züricher Werft Pieper die Initiative zur sofortigen Einführung des neuen Typs ergriffen, so daß auch dort die ersten Boote schon im Bau begriffen sind. Schließlich hat das italienische Olympische Komitee bei einer Triester Werft acht Olympia-Jollen in Auftrag gegeben.

Das Tagesprogramm der IV. Olympischen Winterspiele 1936

Das Organisationskomitee für die IV. Olympischen Winterspiele hat im Einvernehmen mit den zuständigen internationalen Verbänden die Wettkampfprogramme auf die Tage vom 6.—16. Februar 1936 folgendermaßen aufgeteilt:

Donnerstag, den 6. Februar 1936:

11,00 Uhr: Eröffnungsfeier im Olympia-Skistadion
14,30 „ Eishockey
21,00 „ Eishockey

Freitag, den 7. Februar 1936:

9,00 Uhr: Eishockey
11,00 „ Ski-Abfahrtslauf für Damen und Herren
14,30 „ Eishockey
21,00 „ Eishockey

Sonntag, den 8. Februar 1936:

9,00 Uhr: Eishockey
10,00 „ Ski-Slalom für Damen
14,00 „ Bobrennen
14,30 „ Eishockey
21,00 „ Eishockey

Sonntag, den 9. Februar 1936:

10,00 Uhr: Ski-Slalom für Herren
10,00 „ Eishockey
14,00 „ Bobrennen (Vierer)
14,00 „ Eisschießen (Vorführung)
21,00 „ Eishockey

Montag, den 10. Februar 1936:

9,00 Uhr: Ski-Staffellauf (4 × 10 km)
9,00 „ Eiskunstlauf - Pflicht
14,00 „ Eisschießen (Vorführung)
abends: Fest der Teilnehmer

Dienstag, den 11. Februar 1936:

9,00 Uhr: Eisschnellauf
9,00 „ Eiskunstlauf - Pflicht
14,00 „ Bobrennen (Zweier)
14,30 „ Eishockey
21,00 „ Eishockey

Mittwoch, den 12. Februar 1936:

9,00 Uhr: Eisschnellauf
9,00 „ Eiskunstlauf - Pflicht
10,00 „ Ski-Langlauf (18 km) speziell und Kombination
14,00 „ Bobrennen (Zweier)
14,30 „ Eishockey
21,00 „ Eishockey

Donnerstag, den 13. Februar 1936:

9,00 Uhr: Eisschnellauf
9,00 „ Eiskunstlauf - Pflicht
11,00 „ Skisprunglauf für Kombination
14,30 „ Eiskunstlauf: Paarlauf
21,00 „ Eishockey

Freitag, den 14. Februar 1936:

8,30 Uhr: Militär-Patrouillen-Lauf (Vorführung)
9,00 „ Eisschnellauf
10,00 „ Eishockey
14,30 „ Eiskunstlauf: Kür für Herren
21,00 „ Eishockey

Sonntag, den 15. Februar 1936:

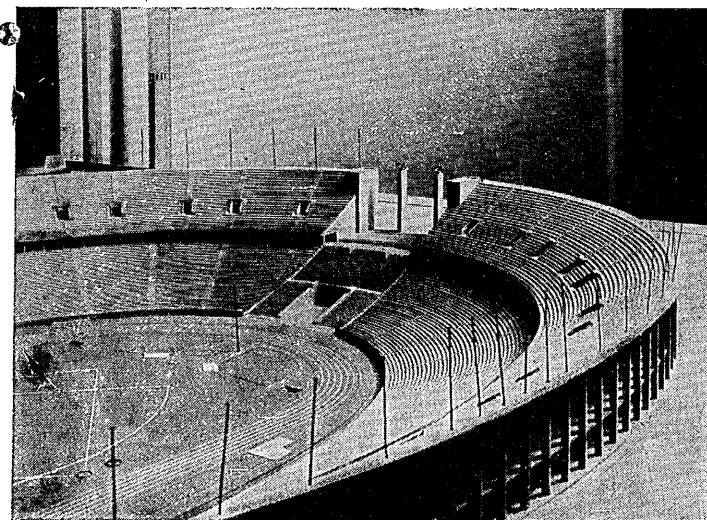
8,00 Uhr: Ski-Dauerlauf (50 km)
10,00 „ Eishockey
14,30 „ Eiskunstlauf: Kür für Damen
21,00 „ Eishockey

Sonntag, den 16. Februar 1936:

11,00 Uhr: Ski-Spezialsprunglauf
14,30 „ Eishockey

Schlußfeier im Olympia-Kunsteisstadion. Bekanntgabe der Ergebnisse sowie Verteilung der Urkunden und Plaketten.

Das Organisationskomitee für die IV. Olympischen Winterspiele 1936 behält sich das Recht vor, mit Zustimmung der betreffenden internationalen Verbände und der Richter dieses Programm zu ändern, falls die Wetterverhältnisse oder die Zahl der Beteiligten dies zum Besten des Sports ratsam erscheinen lassen sollten.



Verfügbar als Mater und Photo

Modellphoto vom Westeingang der Deutschen Kampfbahn (Olympia-Stadion)

Über die Stufen dieses Eingangs werden am 1. August 1936 die Teilnehmer der Olympischen Spiele in das Stadion einziehen. Der Tunnel unter dem Eingang führt zu den Umkleieräumen. Man bemerke, daß auf der Höhe der ebenen Erde ein Säulengang die Zuschauertribüne in einen oberen und unteren Ring teilt. In dem Umgang werden sich die Verkaufsstände für Erfrischungen usw. befinden.

„Olympia ist ein heiliger Ort . . .“

Der Sage nach geht der Gottesfrieden, der für alle griechischen Staaten während der Zeit der Olympischen Spiele galt, auf einen Vertrag zwischen König Iphitos von Elis und Lykurg von Sparta zurück, der auf einem ehernen, im Hera-Tempel zu Olympia aufbewahrten Diskus mit folgenden Worten eingegraben war:

„Olympia ist ein heiliger Ort. Wer es wagt, diese Stätte mit bewaffneter Macht zu betreten, wird als Gottesfrevler gebrandmarkt.“

Diese Worte zieren neben denen des modernen olympischen Eides in goldenen Lettern als Wandspruch den Ehrenraum der Olympia-Ausstellung, die der Reichssportführer zusammen mit dem Propaganda-Ausschuß der Olympischen Spiele in Berlin veranstaltet und kürzlich eröffnet hat, und die später in anderen Städten des Reiches wieder aufgebaut werden wird. Die Ausstellung soll für den Gedanken des Sports im allgemeinen und die Olympischen Spiele im besonderen Verständnis wecken. Mit der Fülle hervorragenden Schaumaterials, das sowohl die Olympischen Spiele der Antike wie die Spiele der neuzeitlichen Olympiaden und ganz besonders die Pläne und Vorbereitungen für 1936 darstellt, wird die Ausstellung diesen Zweck sicher erfüllen. Sie ist in den ersten drei Wochen nach Eröffnung schon von rund 20 000 Personen besucht worden, darunter von 14 000 Schülern und Schülerinnen unter Führung ihrer Lehrer.

Die in der vorliegenden Nummer veröffentlichten Bilder von den Olympia-Kampfstätten sind nach den Modellen der Ausstellung angefertigt.

Die ersten Olympia-Kämpfer für 1936 schon fest benannt — in Amerika und Japan

Es ist eine lange Reise von Amerika und Japan nach Deutschland, und da die Olympischen Winterspiele in Garmisch-Partenkirchen schon vom 6. bis 16. Februar 1936 stattfinden, die Mannschaften auch schon eine gewisse Zeit vor Beginn der Wettkämpfe dort eintreffen müssen, bleibt für die Amerikaner und Japaner im Winter 1935/36 eigentlich kaum noch Zeit zu Ausscheidungswettkämpfen. So erklärt sich, was den Europäer zunächst mit Staunen erfüllt — denn die Olympischen Spiele sind ja scheinbar noch so fern —, daß in Amerika und Japan schon jetzt Ausscheidungswettkämpfe abgehalten werden. Elf Bobfahrer von den U. S. A. haben den Ruhm, daß sie als erste auf der ganzen Welt für die Spiele des Jahres 1936 (nach Prüfungsfahrten auf der Mount Hoevenberg-Bahn zu Lake Placid) ausgewählt und der Öffentlichkeit benannt worden sind. Unter ihnen befinden sich Billy Fiske, der schon als sechzehnjähriger Schuljunge 1928 bei den Winterspielen in St. Moritz olympische Lorbeeren für die U. S. A. holte und auch 1932 bei den Winterspielen von Lake Placid mit seinem Viererbob wieder Erster wurde, und ferner zwei von den vier Brüdern Stevens, die als wagemutige Piloten

nicht nur der Bobbahn, sondern auch der Luft bekannt sind, nämlich Curtis und Hubert, die auch 1932 in Lake Placid ihren Zweierbob zum Siege geführt haben. Wenn sowohl Billy Fiske wie Hubert Stevens auf ihrer heimischen Bahn 1932 Garmisch-Partenkirchens großen Bobsteuermann Hans Kilian zu schlagen vermochten, wird es reizvoll sein, 1936 den Rückkampf zu erleben, wenn Kilian die eigene Bahn fährt und seine früheren Bezwingler zu Gäste sind. Die beiden Bahnen, von demselben Ingenieur erbaut, sind einander ziemlich ähnlich. Kilian war jedoch in Lake Placid durch das schlechte Wetter insofern benachteiligt, als dieses das Training damals erheblich beeinträchtigte. Bis April 1935 wird auch der Ski-Ausschuß des Amerikanischen Olympischen Komitees eine achtzehnköpfige Ski-Mannschaft aufgestellt haben, die 1936 in Garmisch-Partenkirchen die Vereinigten Staaten vertreten soll. Die Ausscheidungswettkämpfe finden in Lake Placid, Salt Lake City und Rainier National Park statt.

Auch in Japan sind die Wintersportverbände schon dabei, ihre Vertreter für 1936 auszuwählen. Die eissportlichen Prüfungswettkämpfe haben bereits Ende Januar in Nikko und Tokio stattgefunden; für den Schnellauf sollen vier Mann, für Kunstlaufen drei Mann und für Eishockey eine Mannschaft entsandt werden, mit zusammen drei Führern. Auch für die Hauptspiele, die in Berlin stattfinden, schreiten die Vorbereitungen in Japan rüstig fort. Die Zahl der Aktiven, die nach den letzten Nachrichten von Japan gesandt werden soll, wird voraussichtlich die Hundert überschreiten.

Der Japanische Verband für Leichtathletik („Nippon Rikujokuyogi Remmei“) hat bereits die Kandidaten bezeichnet, aus deren Zahl nach einem bestimmten Ausscheidungsplan bis zum April 1936 40 Mann ausgewählt werden sollen, und diese sollen von 10 Offiziellen begleitet werden. Die Zustimmung des Japanischen Olympischen Komitees wird dabei noch vorbehalten.

Eine Marathonstrecke von Holzbänken

So groß ist die „Deutsche Kampfbahn“, die für die Olympischen Spiele 1936 auf dem Reichssportfeld in Berlin gebaut wird, daß die Holzbänke für die Zuschauer, stellte man eine nach der anderen auf einer Linie auf, eine Strecke von annähernd 50 km bedecken würden. Wer also in dem Olympia-Stadion, wenn es erst fertiggestellt ist, einmal sämtliche Sitzreihen ablaufen will (weil er etwa etwas Verlorenes suchen muß), der soll vorher bei einem erprobten Marathonläufer ins Training gehen.

Für über eine Viertelmillion Olympia-Stadion-Pässe verkauft

(Bereits in der Pressekonferenz der Reichsregierung mitgeteilt)

Der Vorverkauf der sogenannten Stadion-Pässe für die Olympischen Spiele, d. h. der Karten, die für alle im Olympia-Stadion stattfindenden Wettbewerbe, nicht da-



Olympia-Pressedienst

Herausgeber: Organisations-Komitee für die XI. Olympiade Berlin 1936, e. V., Berlin-Charlottenburg 2 Hardenbergstraße 43 — Fernruf C 1 Steinplatz 8768 — Druckschrift Olympiade Berlin

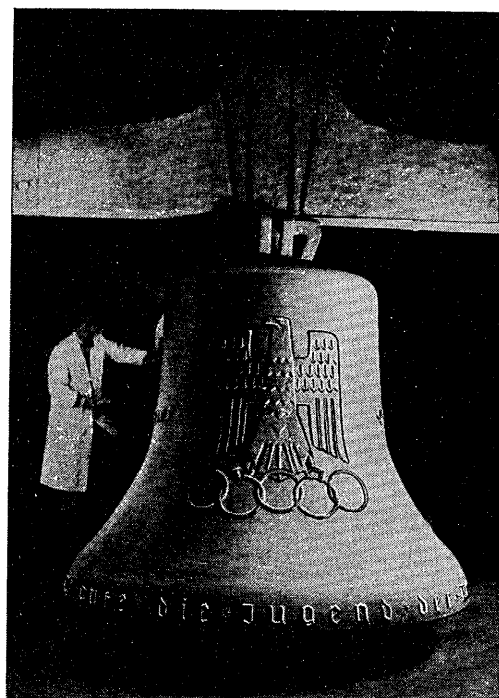
OLYMPISCHE SPIELE BERLIN 1936, 1. 16. AUGUST

Nr. 15

Berlin, den 28. Februar 1935

Das Gußmodell der Olympia-Glocke

Der Berliner Bildhauer Walter E. Lemcke hat das Modell, nach dem die Gießform für die Olympia-Glocke hergestellt werden soll, soeben in seiner Werkstatt fertiggestellt. Der Körper der Glocke, die in den Ausmaßen der bekannten GLORIOSA des Erfurter Doms gleichkommt, ist 2,30 m hoch, ihre Krone 0,33 m; dazu kommt dann noch das Joch, d. i. der Querbalken, an dem die Glocke hängt, mit 1 m und der Klöppel, der unten 0,65 m herausragt, so daß sich für das ganze Werk eine Höhe von 4,28 m ergibt. Der Durchmesser des Glockenkörpers mißt am unteren Rande 2,80 m, und das Joch ist 4 m breit. Noch eindrucksvoller wird die gewaltige Masse der Glocke durch ihr Gewicht gekennzeichnet: es ist auf etwa 200 Zentner vorausgerechnet worden, wovon allein 12 Zentner auf den Klöppel entfallen. 50 Zentner Ton waren nötig, um das Gußmodell herzustellen! Das Material, aus dem die Glocke gegossen wird, ist Stahl. Die Fertigstellung wird etwa 4 bis 5 Monate in Anspruch nehmen. Die Glocke wird dann auf den 74 m hohen Führturm aufgehängt werden, der auf dem Aufmarschgelände des Reichssportfeldes, in unmittelbarer Nähe des Stadions, errichtet wird. Sie soll bekanntlich die Olympischen Spiele 1936 einläuten, weshalb sie auf ihrem Spruchband die Worte trägt: Ich rufe die Jugend der Welt.



Verfügbar als Mater und Photo

Zulassung von Pressevertretern zum Olympia 1936

Wenn Olympische Spiele den von ihren Gründern erwünschten Erfolg haben sollen, wenn sie nämlich in der Jugend aller Völker das Verständnis für sportliche Ideale fördern und zugleich ein Gefühl der Zusammengehörigkeit unter diesen Idealen erwecken sollen, so ist dazu die verstärkte Mitarbeit der Presse aller Länder unentbehrlich. Das Organisationskomitee für die XI. Olympiade Berlin 1936 hat sich bisher dieser Mitarbeit schon in reichem Maße erfreuen dürfen; es sieht eine Pflicht darin, auch weiterhin alles ihm Mögliche zu tun, um der Presse ihre Aufgabe zu erleichtern. Dazu gehört vor allem die Bereitstellung von Plätzen und Arbeitsmöglichkeiten während der

Spiele selber. Im Olympischen Stadion sind auf der Haupttribüne 800 Presseplätze, das sind 100 mehr als in Los Angeles, vorgesehen; eine Hälfte wird der deutschen und eine der ausländischen Presse zur Verfügung gestellt werden. Da jedoch der Andrang von Pressevertretern womöglich die Fassungskraft dieser Tribüne übersteigen wird, muß für eine Siebung bei den Zulassungen Vorsorge getroffen werden. Das Organisationskomitee kann die erforderliche Auswahl nicht selber treffen und hat deswegen entsprechend dem bei früheren Olympiaden eingehaltenen Verfahren jedem Lande eine Anzahl von Presseplätzen zugeteilt, die etwa 10 v. H. der von diesem Lande zu den Spielen gemeldeten Teil-

nehmer beträgt. Die nationalen olympischen Komitees sind gebeten worden, von den Pressevertretern ihres Landes die Anmeldungen entgegenzunehmen, die verfügbaren Plätze auf die Angemeldeten zu verteilen und die Pressevertreter, die danach einen Platz erhalten können, dem Organisationskomitee weiterzumelden, und zwar bis spätestens zum 1. Mai 1936. Das Organisationskomitee wird dann nur solche Journalisten zur Pressetribüne zulassen, die durch ihr nationales olympisches Komitee gemeldet sind.

Für die reichsdeutschen Zeitungen sind auf Grund einer Vereinbarung zwischen dem Deutschen Olympischen Ausschuss und dem Organisationskomitee der Spiele, wie schon im Organ des Reichsverbandes der deutschen Presse bekanntgemacht, die Anmeldungen an das Organisationskomitee zu richten, und zwar bis zum 30. April d. J., damit dieses eine Übersicht über die vorläufige Verteilung der Plätze erhält. Die Verteilung wird im Einvernehmen mit dem Reichsausschuss der Sport-Schriftleiter im Reichsverband der Deutschen Presse vorgenommen. Der Reichsausschuss hat bereits darauf hingewiesen, daß die 400 Presseplätze ausschließlich für die tatsächlich arbeitenden Schriftleiter zur Verfügung stehen und daß jede weitere Anforderung nicht berücksichtigt werden kann.

Die olympische Bildberichterstattung 1936

Schnelle Bildberichterstattung ist für die moderne Presse fast ebenso wichtig wie schnelle Übermittlung von Nachrichten. Bei olympischen Spielen muß jedoch der Veranstalter darauf bedacht sein, daß die Zuschauer ebenso wie die Wettkämpfer nicht durch ein Heer von Photographen im Innenraum beeinträchtigt werden. Ähnlich wie es die Veranstalter von Amsterdam 1928 und von Los Angeles 1932 getan haben, wird daher das Organisationskomitee für die XI. Olympiade Berlin 1936 das Recht der Photographie für sämtliche Ereignisse der Fachschaft der Bildberichterstattung im Reichsverband der Deutschen Presse übertragen. Dieser

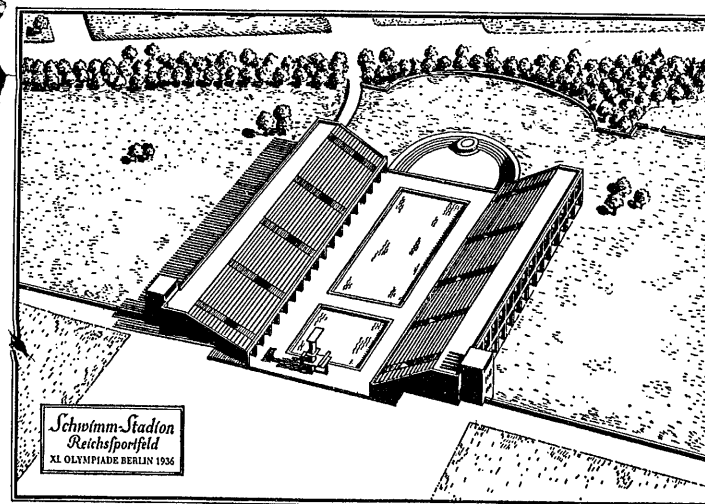
wird im Stadion eine Entwicklungszentrale einrichten, die Aufnahmen durch seine Mitglieder herstellen lassen und jeweils eine Stunde nach jedem Ereignis die davon aufgenommenen Bilder der Presse zum Kauf anbieten. Dem Publikum stehen die Aufnahmen alsdann vom nächsten Tage an zur Verfügung. Auf diese Weise wird sowohl der Presse wie dem Publikum die schnelle Versorgung mit Lichtbildern gewährleistet.

Welttreffen der Sportflieger 1936

Anlaßlich der Feier der XI. Olympiade in Berlin 1936 veranstaltet der Aero-Club von Deutschland gemeinsam mit dem Olympischen Organisationskomitee einen Sternflug nach Berlin für die Sportflieger aller Nationen. Die Teilnehmer des Fluges sollen am 30. Juli 1936 zwischen 17 und 19 Uhr auf einem noch zu bestimmenden Berliner Flughafen eintreffen. Für sie werden bevorzugte Plätze bei dem Großflugtag vorgesehen, der am 31. Juli stattfindet, und in dessen Rahmen die internationale Kunstflugmeisterschaft ausgetragen wird. Außerdem werden den Teilnehmern Plätze bei der Eröffnungsfeier der Olympischen Spiele am Sonnabend, dem 1. August 1936, reserviert. Schließlich erhalten sie auch eine Erinnerungsplakette für die Teilnahme an dem Flug.

Während und nach den Spielen werden vom Aero-Club von Deutschland Sterngruppenflüge veranstaltet. Es sind geplant:

1. Gruppenflug nach Ostpreußen mit Besuch von Königsberg, Segelfliegerlager Rossitten, Johannesburg und Nationaldenkmal Tannenberg als Hauptlandeplätzen.
2. Gruppenflug nach Süddeutschland mit Besuch von Nürnberg, München und Berchtesgaden als Hauptlandeplätzen.
3. Gruppenflug zum Rhein mit Besuch von Wernigerode am Harz, Frankfurt a. M., Bonn und Köln als Hauptlandeplätzen.

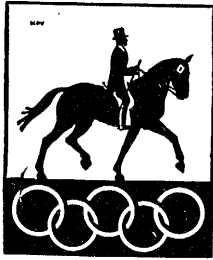


Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck

Das Schwimmstadion auf dem Reichssportfeld

Es befindet sich bereits im Bau und wird rechtzeitig zum Beginn der Schwimm-Saison 1936 fertiggestellt sein. Für die Zeit der Spiele selber wird auch noch auf der dem Sprungbecken gegenüberliegenden Schmalseite des Schwimmbeckens eine provisorische Tribüne errichtet, so daß das Stadion insgesamt rund 12 000 Zuschauern Platz bieten wird. Das Sprungbecken mißt 20 x 20 m, das Schwimmbecken 20 x 50 m. Unter den Tribünen sind Umkleide- und andere Räume angeordnet.

Wie sich Deutschlands Reiter vorbereiten



(Verfügbar als Mater)

Das Deutsche Olympiade-Komitee für Reiterei, dessen Arbeitsausschuß unter Führung des Inspektors der Kavallerie, Generalleutnant Knochenhauer, steht, mit Oberlandstallmeister i. e. R. G. Rau als Generalsekretär, arbeitet seit längerer Zeit intensiv an der Vorbereitung der deutschen Reiter auf die Olympischen Spiele 1936. Bekanntlich bestehen die Reiter-

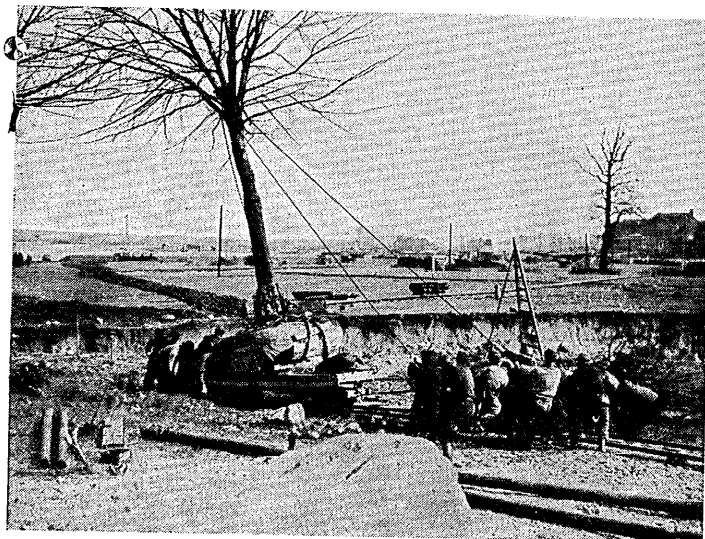
kämpfe bei den Spielen aus drei Prüfungen, nämlich 1. einer fünfteiligen Vielseitigkeitsprüfung mit ganz außerordentlichen Anforderungen an Reiter und Pferd, 2. aus einer großen Dressurprüfung und 3. aus einem großen Jagdspringen. An jeder einzelnen Prüfung können für jedes Land drei Reiter und drei Pferde teilnehmen. Ausbildungsstätte für die deutschen Reiter ist die Kavallerie-Schule in Hannover, die unter Führung des Generalleutnants Freiherrn von Dalwigk steht. Die Ausbildung der für die Olympischen Spiele in Betracht kommenden Reiter ist an der Kavallerie-Schule entsprechend den drei verschiedenen Prüfungen untergeteilt in drei Abteilungen:

1. Dressurpferde (Leiter Major Gerhard, dem bekanntlich der Schulstall der Kavallerie-Schule unterstellt ist);
2. Vielseitigkeitspferde unter Rittmeister v. Metzsch, dem Leiter des sogenannten Vielseitigkeitsstalles;

3. Springpferde unter Leitung des Oberstleutnants Freiherrn von Waldenfels, dem der Springstall untersteht. Seit dem 1. Oktober des Vorjahres ist für die Dressurpferde in Hannover auch noch der bekannte Reitmeister Oskar Lörke als Ausbilder gewonnen worden. Außerdem werden, bedingt durch persönliche und örtliche Verhältnisse, einige Dressurreiter und Dressurpferde unter Leitung der bekannten Reitmeister Major a. D. Bürkner und Richard Wätgen in Berlin ausgebildet. Für jede der drei großen Olympischen Prüfungen stehen neun bis zwölf Reiter und je zehn bis sechzehn Pferde zur Schulung. Die endgültige Auswahl erfolgt kurz vor den Spielen auf Grund der gezeigten Leistungen.

Das Deutsche Olympiade-Komitee für Reiterei veranstaltet neben der laufenden Erprobung, die durch die vielen Prüfungen innerhalb des Turniersportes dauernd stattfindet, auch noch große Sonderprüfungen für diejenigen Reiter und Pferde, denen eine Vertretung der deutschen Interessen an den Olympischen Spielen voraussichtlich anvertraut werden kann. So haben bereits im Jahre 1934 vier Vielseitigkeitsprüfungen in Hannover, Wiesbaden sowie in Berlin-Potsdam und in Berlin-Döberitz stattgefunden, desgleichen einige große Dressurprüfungen.

In diesem Jahre ist die erste große Dressurprüfung mit Olympischen Bedingungen soeben beim Dortmunder Reichsverbands-Turnier vor sich gegangen und brachte einige der besten in Vorbereitung stehenden Reiter und Pferde vor das große Publikum. Eine zweite große Dressurprüfung ist für den 24. Mai in Hannover angesetzt. Eine große internationale Dressurprüfung steht für den 13. Juli in



(Verfügbar als Mater und Photo)

Bäume ziehen um

Um dem Reichssportfelde den Charakter einer parkartigen Anlage zu wahren, werden die Bäume, die auf dem Boden der späteren Spielfelder stehen und also dort nicht belassen werden können, nicht umgeschlagen, sondern an solche Stellen versetzt, wo sie nicht stören. Die Bäume werden mitsamt der Wurzel ausgegraben und auf einem Karren zu ihrem neuen Standort befördert. Insgesamt sind schon über 800 Bäume auf diese Weise versetzt worden. Auf dem Bild ein besonders schöner Ahorn.

Berlin an. Vielseitigkeitsprüfungen veranstaltet das Komitee in diesem Jahre vom 22. bis 24. Mai in Hannover, vom 20. bis 22. Juni in Berlin-Ost, vom 11. bis 13. Juli in Berlin-West und im September in München.

Das Komitee ist von jeher eine der stärksten Stützen des deutschen Reitsports gewesen. Es erwirbt Pferde, die für die Olympischen Spiele in Betracht kommen, oder sichert sich solche Pferde durch Mietverträge. Zur Zeit gehören dem Komitee von bekannten Dressurpferden, Vielseitigkeitspferden und Springpferden, die für die Olympischen Spiele in Betracht kommen oder zur Ausbildung der Reiter gebraucht werden, u. a. die folgenden: Alp, Tora, Maientag, Artus, Derby, Prinz, Pendel, Fleiß. Durch Mietverträge sind u. a. Burgsdorff und Lausbub gesichert. Der Reichssportführer ist Mitglied des Deutschen Olympiade-Komitees für Reiterei und nimmt an allen Einzelheiten der Ausbildung von Reiter und Pferd den regsten Anteil. Er hat bereits in mehreren grundlegenden Fragen, deren Lösung den Reitern und Pferden in hohem Maße zugute kommen würde, entscheidend eingegriffen. Dem Arbeitsausschuß des Deutschen Olympiade-Komitees für Reiterei ist auch die Durchführung der reiterlichen Wettbewerbe und des Polospiels bei den Olympischen Spielen übertragen.

Olympisches Ferngespräch Berlin—Tokio

Im klassischen Griechenland war eine Verständigung der einzelnen Städten und Staaten mit den Priestern, die die Olympischen Spiele veranstalteten, nur durch Boten möglich, die zu Fuß oder allenfalls zu Pferde oder zu Wagen in Tagen und Wochen ihre Strecke zurücklegen konnten. Anlässlich der Olympischen Spiele von Berlin 1936 haben wir schon erlebt, daß eine Botschaft von dem Berliner Organisationskomitee an die Staaten Südamerikas mit dem Zeppelin reiste und schon vor Erreichung der amerikanischen Küste durch Rundfunk der Bevölkerung mitgeteilt wurde. Jetzt hat es sich — gleichermaßen denkwürdig — begeben, daß der Präsident des Deutschen Olympischen Organisationskomitees aus seiner Wohnung mit einem Lande des Fernen Ostens, Japan, ein Ferngespräch führen und dabei der japanischen Sportwelt ein herzliches und freudiges Willkommen in Deutschland und Berlin 1936 zurufen konnte. Dieses Gespräch fand am 13. März anlässlich der Eröffnung des drahtlosen Telephondienstes zwischen Berlin und Tokio statt, die auf deutscher Seite durch Minister Dr. Goebbels vorgenommen worden ist, und wurde mit dem Herausgeber des „Journals Yomiuri“ geführt. Dr. Lewald sprach dabei die Hoffnung aus, daß der unmittelbare Fernsprechverkehr zur raschen Erledigung wichtiger Fragen zwischen dem japanischen Olympischen Komitee und dem Organisationskomitee für die XI. Olympiade beitragen möge, und berichtete von seinem Zusammentreffen mit dem kaiserlich japanischen Botschafter in Rom, Dr. Yotaro Sugimoura, Mitglied des Internationalen Olympischen Komitees, anlässlich der Tagung dieses Komitees in Oslo.

Olympische Besucher in Berlin

Unter dieser Überschrift werden wir laufend die Damen und Herren des Auslandes verzeichnen, die dem Organisationskomitee für die XI. Olympiade oder dem Reichssportführer einen Besuch abgestattet haben, um sich für die Vorbereitungen zu den Olympischen Spielen zu unterrichten und die Anlagen auf dem Reichssportfeld usw. zu besichtigen.

Acht Mitglieder des Internationalen Olympischen Komitees (7.-8. März):

Senator Jules de Muzsa (Ungarn)
Angelo C. Bolanachi (Griechenland)
Albert Glandaz (Frankreich)
Marquis de Polignac (Frankreich)
Janis Dikmanis (Lettland)
Stefan G. Tschaprachikow (Bulgarien)
Dr. Sugimoura (Japan).
Prof. F. R. Bucar (Jugoslawien)

Ferner, am 13.-14. März:

der Präsident des Internationalen Olympischen Komitees, Graf Baillet-Latour, Brüssel;

des weiteren, ebenfalls im Laufe des März:

G. Ebrecht, Professor der Architektur in Santa Fe, Argentinien
Acurcio Pereiro, Chefredakteur des Portugiesischen Blattes „O Seculo“
Janusz Ostrowski, Ingenieur-Architekt aus Warschau
Fürst Uekinsky, Präsident des Österreichischen Aeroclubs, Mitglied im Österreichischen Olympischen Komitee, Wien
Konsul Ernst Krogius, Helsingfors, Mitglied des Internationalen Olympischen Komitees
Frl. Gunhild Horne-Rasmussen, Sekretärin des Olympiasparvereins der Zeitung Politiken, Kopenhagen.

Garmisch nicht ausverkauft

Entgegen umlaufenden Gerüchten sei hiermit festgestellt, daß der Ort für die IV. Olympischen Winterspiele, Garmisch-Partenkirchen, für die Zeit der Spiele (6.-16. Februar 1936) keineswegs heute schon ausverkauft ist. Es sind bisher keinerlei endgültige Quartierabmachungen seitens des Hotelgewerbes getroffen, da zunächst die Unterbringung der Teilnehmer, Leiter und Ehrengäste der Olympischen Spiele abgeschlossen sein muß. Dann werden die Hotels erst ihre Abschlüsse für das Publikum treffen. Aber auch hier sei betont, daß sowohl im Ort selbst wie in den Nachbarorten reichlich Unterbringungsgelegenheit vorhanden ist.

Ebenso sei ausdrücklich festgestellt, daß keinerlei Preiserhöhung eintritt. Die für die Spiele angesetzten Richtpreise (Vollpension 5 bis 18 Reichsmark) werden eingehalten werden, und auch die Preise für Beköstigung, Fuhrtarife usw. werden nicht erhöht.

Aus den Beratungen, die das Organisationskomitee in der letzten Zeit abgehalten hat, geht hervor, daß die Hauptkampfstätten Skistadion, Eisstadion, Eisplatz Rießensee und Bobbahn noch erweitert werden. An allen diesen Stätten wird die Fassungskraft für das Publikum erhöht, und die Erfahrungen der Wintersport-Meisterschaften 1935 werden bei diesen Ergänzungsbauten ausgearbeitet.

Italiens olympische Rüstungen - ein Querschnitt

Das über alles Erwarten gute Abschneiden der italienischen Vertreter an den Olympischen Spielen von Los Angeles stellt jetzt sie und die leitenden Männer des C.O.N.I. - des Italienischen Olympischen Komitees - vor die Aufgabe, in Berlin 1936 alle Kräfte für eine würdige Fortsetzung jenes ruhmreichen Beginns einzusetzen.

Die Vorbereitungen in allen Sportlagern sind schon seit langer Zeit in vollem Gange und erreichen in diesem Jahre ihren Höhepunkt. Es gilt, die Suche nach geeigneten Olympia-Anwärtern allmählich abzuschließen und die ausgesuchten Leute in Einzelkursen auf ihre besonderen Aufgaben gründlich vorzubereiten. Die Größe der zu leistenden Arbeit geht schon aus der Zahl der Aktiven - rund 300! -, die Italien nach Berlin schicken wird, mit Deutlichkeit hervor:

Am weitesten sind mit ihren Vorbereitungen die Wintersportler gekommen, die ja ihre Vertretung schon zum Februar 1936 stellen müssen. In Lake Placid war Italien kaum vertreten; um so zahlreicher und leistungsfähiger wird aber die italienische Mannschaft in Garmisch-Partenkirchen sein. In den letzten Jahren sind erstaunliche Fortschritte gerade im Wintersport gemacht worden. Der Skisport steht heute an Volkstümlichkeit dem Fußball und Radfahren kaum noch nach; beispielsweise haben in diesem Winter 400 000 Skiläufer an rund 500 Wintersportfesten in den Alpen und auf den Apenninen teilgenommen. Die besten Wettkämpfer waren schon im vergangenen Herbst in der Sporthochschule „La Farnesina“ (Rom) zu einem Trockenkursus versammelt; in den Wintermonaten wurden

sie von zwei ausgezeichneten ausländischen Lehrern im Gelände weitergeschult; der Tiroler Leo Gasperl widmete sich den Abfahrts- und Slalomläufern, und der Norweger Kjellberg hatte die Langläufer und Springer. Die Erfolge einer solchen systematischen Arbeit bleiben nicht aus. Die aufsehenerregenden Leistungen der italienischen Skiläufer bei den Deutschen Meisterschaften in Garmisch-Partenkirchen sind Beweis hierfür.

Sehr fleißig an der Arbeit sind auch die Leichtathleten, die in Beccali und Frigerio ihre erfolgreichen Vorkämpfer sehen können. Verschiedene Lehrgänge haben schon während des letzten Jahres stattgefunden. Nachdem jetzt die Auslese ziemlich abgeschlossen ist, sind von neuem die Besten (76 an der Zahl, und alle jünger als 27 Jahre) wieder in der „Farnesina“ zu einem dreiwöchigen Kursus versammelt worden. Entsprechend den guten Erfahrungen mit ausländischen Sportlehrern stehen den italienischen Leichtathleten auch in diesem wichtigen Vorolympiajahr erprobte ausländische Lehrkräfte zur Seite. Der namhafte amerikanische Trainer Comstock bildet die Schnellläufer und Springer aus, während die Finnen Karikko und Renko den Mittel- und Langläufern sowie den Werfern ihre ausgezeichnete Technik vermitteln. Man hofft somit auch in dieser wichtigsten aller Sportarten für die Berliner Spiele gut gerüstet zu sein.

Die Fechter, Turner, Faustkämpfer, Ruderer, Radfahrer und Schützen, die an eine Tradition, reich an olympischen Siegen, anknüpfen können, haben schon längst ihre Ausscheidungskämpfe durchgeführt. Die Auserwählten erhalten nunmehr Gelegenheit, sich mit der schwersten aus-

ländischen Konkurrenz zu messen. Die Fechter sind in der letzten Zeit sehr fleißig gewesen und haben sich erfolgreich gegen Frankreich (Florett und Degen) und gegen Belgien (Florett) geschlagen. Die Faustkämpfer werden im kommenden Mai sogar eine Amerika-Reise antreten, einer Einladung des amerikanischen Verbandes folgend; sie bestreiten dann in Chicago die Endkämpfe für den „Goldenen Handschuh“. Die Ruderer werden im August nach Grünau kommen, um an den Europa-Meisterschaften teilzunehmen, wobei sie in allen Bootsgattungen vertreten sein werden. Die Ausbildung der Radfahrer macht keine besondere Sorge, da die unzähligen Rennen, die jährlich auf der Halbinsel zur Durchführung kommen, die Auslese der Besten sehr erleichtert. Eifrig an der Arbeit sind auch Ringer und Gewichtheber, die schon öfters olympische Lorbeeren für Italien errungen haben. Auch die Segler sind gerade beschäftigt, ihre besten Mannschaften zu ermitteln und sie in den schwersten internationalen Wettbewerben zu prüfen; die eben beendete Regatta in Genua war der Auftakt. Im Juni werden in Triest die Europa-Meisterschaften ausgetragen, und bei der Kieler Woche werden sich dann alle Olympia-Anwärter noch einmal miteinander messen.

Italien wird sich auch an verschiedenen Mannschaftsspielen beteiligen. Basketball wird neuerdings besonders intensiv in den Schulen betrieben und hat in kurzer Zeit einen erstaunlichen Auftrieb bekommen. Auch für Fußball kann eine starke Mannschaft nach Berlin geschickt werden, da bekanntlich in Italien das sogenannte „gemischte System“ herrscht, also eine große Anzahl ausgezeichnete Amateurspieler neben den Berufsspielern tätig ist. Der italienische Fußball-Verband hat seine Teilnahme zu dem Olympia-Turnier schon zugesagt; da er seinen Ruf als Weltmeister

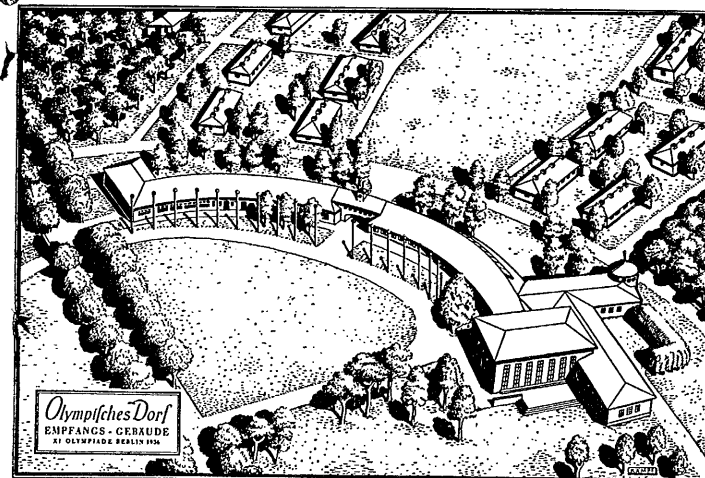
des letzten Jahres zu verteidigen hat, ist damit dem Turnier jetzt schon ein hoher sportlicher Rang gesichert.

Übereinstimmend mit den Idealen von de Coubertin wird Italien schließlich auch die Kunstwettbewerbe nicht vernachlässigen, sondern im Gegenteil die Teilnahme seiner schaffenden Künstler mit Nachdruck fördern. Es sind deswegen schon Ausscheidungswettbewerbe ausgeschrieben worden.

Geänderte Eintrittspreise zum Olympia 1936

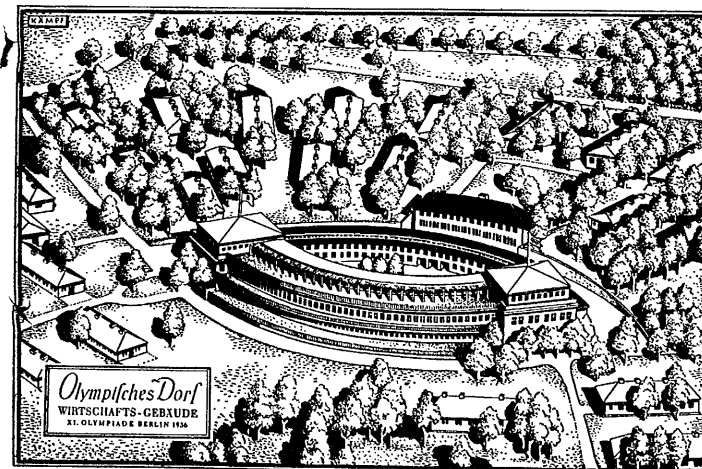
Am 1. Juli des Jahres beginnt bekanntlich der Vorverkauf sowohl von Dauerkarten für einzelne Sportarten des olympischen Programms wie auch von Einzelkarten für die Eröffnungs- und Schlußfeier der Spiele am 1. und 16. August. Gerade diese beiden Einzelkarten werden besonders viel begehrt von solchen, die in der ersten Woche der Spiele die Leichtathletik und in der zweiten Woche das Schwimmen sehen wollen und die deswegen lieber die Dauerkarten für diese beiden Sportarten nebeneinander wählen, als einen Stadionpaß, mit dem man in der zweiten Woche nur Fußball und Handball, nicht aber Schwimmen sehen kann. Die Preise für die Eröffnungs- und Schlußfeier sind gegenüber den bisher veröffentlichten Sätzen etwas abgeändert worden. Während der Preis für den I. Platz bei 15 RM. verbleibt, soll der II. Platz 10 RM., der III. Platz 6 RM. und der Stehplatz 3 RM. kosten. Ferner ist die Reihe der am 1. Juli verfügbaren Dauerkarten etwas erweitert worden. Während nämlich im allgemeinen Dauerkarten nur für Sitzplätze zu haben sind, wird für das Schwimmstadion auch eine Stehplatzdauerkarte ausgegeben. Sie soll 20 RM. kosten.

Das Eingangsgebäude im Olympischen Dorf



(Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck)

Der halbkreisförmige Teil enthält rechts eine große Empfangshalle, die sogenannte Halle der Nationen, in der für jede Nation eine Kojen eingerichtet ist. Hier empfangen die olympischen Attaches der einzelnen Mannschaften oder ihre Stellvertreter die Besucher und vermitteln mit Hilfe des Telefons den Verkehr mit den Angehörigen der Mannschaften. Über dem Toreingang liegt das Büro des Kommandanten und der Lagerverwaltung sowie die Wache. Links vom Tor hat die sporttechnische Abteilung ihre Räume. Ferner ist dort eine Bankfiliale, ein Paket- und Briefpostamt, ein Gepäckraum und eine Wäscherei-Agentur für die Dorfbewohner vorgesehen, und getrennt davon, für Publikum und Presse zugänglich, ein zweites Postamt und fünf Läden. In dem Querflügel rechts findet ein 5-600 Personen fassender Saal Platz. Zur Erleichterung der Vorfahrt wird unter der Fernverkehrsstraße Berlin-Hamburg, die links am Empfangsgebäude vorbeiführt, ein Tunnel angelegt, der auf der jenseitigen Straßenseite liegt, ist ebenfalls durch diesen Tunnel zu erreichen.



(Verfügbar als Mater und reproduktionsfähiger Kunstdruck)

Das Wirtschaftsgebäude des Olympischen Dorfes

Hier werden die Bewohner des Olympischen Dorfes nationenweise verpflegt. Insgesamt 40 verschieden große Küchen mit je einem Speisesaal werden hier errichtet, darunter zwei Küchen und Säle für je 150, drei für je 100 und fünfzehn für je 40 Personen. Hier befinden sich auch das ganze für den Küchenbetrieb erforderliche Nebengelaß, Vorratsräume, Umkleidezimmer für die Köche und ihre Gehilfen, dazu die Diensträume für die Feuerwehr des Dorfes, 50 Wohnzimmer mit Nebengelaß und Kantine für das Personal, Werkstätten, die Dienstwohnung des Dorf-Ingenieurs und ähnliche, dem technischen und Wirtschaftsbetrieb dienende Räume. Der Bau hinter dem Wirtschaftsgebäude, zu dem rechts und links Treppen hinabführen, enthält ein Fernheizwerk, wie es mit Rücksicht auf die spätere Verwendbarkeit des Olympischen Dorfes erforderlich ist.



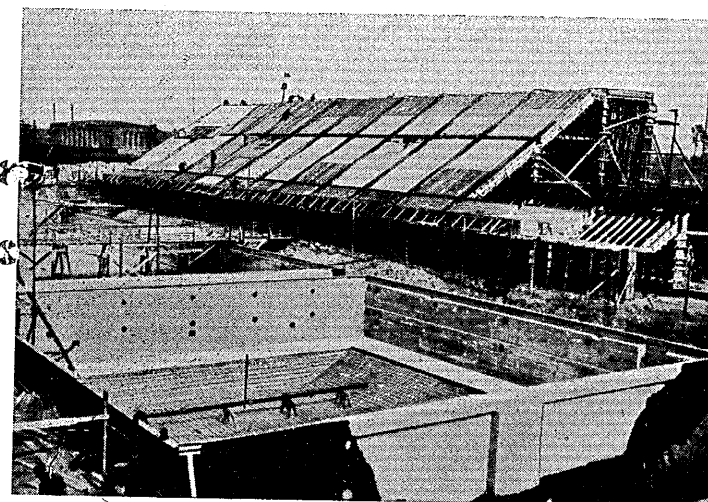
Olympia-Pressedienst

Herausgeber: Organisations-Komitee für die XI. Olympiade Berlin 1936, e. V., Berlin-Charlottenburg 2 Hardenbergstraße 43 — Fernruf C 1 Steinplatz 8091 — Drahtanschrift Olympiade Berlin

OLYMPISCHE SPIELE BERLIN 1936, 1.-16. AUGUST

Nr. 16

Berlin, den 29. März 1935



(Verfügbar als Mater und Photo)

Das Schwimmstadion für 1936 im Bau

Im Vordergrund das 20×20 m messende Sprungbecken, von dem 50 m langen Sport-Schwimmbecken durch eine Betonbarre getrennt. Links hinten neben der Zuschauertribüne ist die große Turnhalle des Sportforums sichtbar, in der die Fecht-Wettbewerbe der Olympischen Spiele stattfinden werden.

EIN HITLERWORT ZUR XI. OLYMPIADE

„Der sportliche, ritterliche Kampf weckt beste menschliche Eigenschaften. Er trennt nicht, sondern eint die Gegner in gegenseitigem Verstehen und beiderseitiger Hochachtung. Auch er hilft mit, zwischen den Völkern die Bande des Friedens zu knüpfen. Darum möge die olympische Flamme nie verlöschen!“

(Diese Sätze hat der Schirmherr der Olympischen Spiele Berlin 1936, der Führer und Kanzler des Deutschen Reiches, als Vorwort dem von Friedrich Mildner herausgegebenen zweibändigen Werk „Olympia 1936 — Die Leibesübungen im nationalsozialistischen Staat“ gewidmet. Dieses Standardwerk des deutschen Sports ist erschienen im Verlage Buchvertrieb Olympiade 1936 zu Berlin.)

Muschelkalk der Baustoff für das Olympia-Stadion

Als Werkstoff, aus dem die fast 13 m hoch aufragende Fassade der Deutschen Kampfbahn (Olympia-Stadion) auf dem Reichssportfelde hergestellt werden soll, ist Muschelkalk bestimmt worden, wie er in der Gegend von Würzburg unweit des Mains abgebaut wird, ein sehr schöner, rauher und dabei wetterbeständiger Stein. Er bietet dem Auge einen viel gefälligeren Anblick, als wenn der Beton, aus dem die Masse des Rohbaues besteht, nach außen hervortreten würde. Von dem Muschelkalk werden 136 Pfeiler gebraucht, deren jeder 13,50 m hoch ist und einen Querschnitt von 1,50 × 1 m hat, ferner viele Hunderte von 5 cm starken Platten, alles in allem etwa 5000 cbm. Würde man die Pfeiler und Platten über- und nebeneinander aufstapeln, so würde das einen Steinwürfel von 17 m Seitenlänge ergeben, so groß also wie ein breit ausladendes vierstöckiges Berliner Miethaus. An der Lieferung dieser riesigen Steinmengen sind zwölf verschiedene Firmen beteiligt.

I-0487

I-0487

外務省



911203

202

ノ時期或ハ開催地ヲ全然別ニスルコト必要ナルヘシ右ハ嘉納博士ニ
於テモ已ニ御諒解ノコトト考ヘラルル處「オスロウ」ノ杉村大使ニ
通知ノ要アルニ付右趣旨ニ於テ東京市側ト御話合ノ上結果大至急御
回電アリタシ（本電杉村大使ト協議済）

寫送先

外務省



911203

201

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和10

2. 25

二八四八

暗

伯林 本省

廿二日後發
二月廿三日前着

情二

廣田外務大臣

武者小路大使

第四二號

貴電第一二號末段ニ關シ

博覽會ト「オリムピック」トノ同時開催ニ對スル委員會側ノ反對ハ
從來ノ經驗ニ徴スルモ各般ノ關係ニ於テ「スポーツ」ノ神聖ヲ害ス
ル惧アリト言フニ存シ前電「レイワルソウ」ノ外壞太利「オリンピ
ック」代表「シュミット」モ杉村大使及本使ニ繰返シ其ノ旨ヲ強調
シタル次第モアリ右貴電末段ノ趣旨ハ到底列國委員ヲ諒解セシムル
能ハスト認メラル從テ博覽會ヲ全然取止ムルヲ得ストセハ少ク共其

秘

電信寫

昭和10

暗 仙林

本省

二月廿三日 午後發

情二

喜多

廣田外務大臣宛二月廿三日 福五 佐村 武者小路大使宛電報(密)
第四十二號

貴電第一十二號末段ニ關シ

博覽會ト「オリンピック」

同時開催ニ對スル委員會側々反對ハ

從來ノ經驗ニ徴スルモ各般ノ關係ニ於テ「スポーツ」ノ神聖ヲ害ス

ル惧アリト言フニ存シ前電「レイナルンワー」外與太利「オリンピック」代表「シュミット」モ杉村大使及林使ニ線返シ其ノ事ハ強調

シタル次第モアリ新貴電拜啟ノ趣旨ハ判然列國委員ヲ諒解セシムル

コト不「可」然ナリト

廣田外務大臣宛電報ニ關シ

博覽會ヲ全然取止ムルヲ得ヌトセハ少ク共其

ノ時期或ハ開催地ヲ全然別ニスルコト必要ナルヘシ右ハ嘉納博士ニ

於テモ「御諒解」ノコトト考ヘラルル處「オスロウ」ノ杉村大使ニ

通知ヲ要アルニ付右趣旨ニ於テ東京市側ト御話合ノ上精米本手御

回電アリタシト本電杉村大使ト協議済ナリ

左ノ杉村大使トニ協議済ナリ

大至急何分ノ儀

S

911203

204

S

911203

203

I-0487

寫送先

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

訂正通知

廿四日「オスロ」發（無號）第三行目「氏ニ對シ」トアルヲ「東京市ニ對シ」ト訂正アリタリ

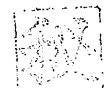
情二

外務省



911203

206

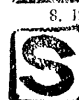


廣田外務大臣宛二月二十三日着在伯林武者小路大使發電報寫

「オリンピック」大會ト博覽會トヲ同時ニ開催スルコトニ對シ委員會側カ反對スルハ從來ノ經驗ニ徴スルモ各般ノ關係ニ於テ「スポーツ」ノ期望ヲ香スル俱アリト言フニ在リテ與太利「オリンピック」代表「シュミット」モ前電申進メノ「レイワルソウ」ト同様本使及杉村大使ニ對シ其ノ旨ヲ繰返シ強調シタル次第モアリ貴電ノ趣旨ニテハ列國委員ヲ到底諒解セシムルコト不可能ナリト認メラル就テハ博覽會ヲ全然中止スルコト困難ナラハ少ク共其ノ開催地或ハ時期ヲ全然別ニスルコト必要ナルヘシ右ハ既ニ嘉納博士ニ於テモ御諒解ノコトト思考セララル處「オスロウ」出張ノ杉村大使ニ通知スル必要アルニ付東京市側ト石ノ趣旨ニテ御話合ノ上大至急何分ノ既同電アリタシ

石ハ杉村大使トモ協賛ナリ

外務省



911203

205

I-0487

I-0487

ロイヤル・ガゼットに接したイタリヤ・オーストリア委員會
は委員長アキレ・スタラツチエ氏の名を以て
即日回答を發した、イタリヤ委員會は依然東
京案への譲歩の「絶對的條件」として一九四
四年大會をロイヤル・ガゼットに開催することを要求する
ものの如くスタラツチエ委員長は回答文に於
て次の如く述べてゐる
「イタリヤ委員會は依然一九四〇年大會候補
地としての權利を留保する、イタリヤ聯協
が東京案に對し優先的地位を譲歩したのは
一九四〇年が日本帝國の建國二千六百年に
相當する等の諸事情を考慮全く騎士的猶
に出たものに他ならない、然し右譲歩は國
際委員會が一九四四年大會をロイヤル・ガゼットに開催
する決定を下すことを絶對的條件とする
前九・九

◎依然として條件固執

聯合 外信 第六號 十年二月廿三日 G

S 811203

207

電	信	案	外	務	省
又アリ決レテ、スポーツノ神聖ヲ害ムコト 無キヲ信スルニ、場合ニ依リテハ現在計画 レルニ三月ヨリハ月迄ノ博覧会期ヨリ 東京市側ニ 特ニ「オリムピック」ノ為メ変更 スルニ、金銀メダルニ付在ル由、言ノ上ニ其 説得ナル方相成ルベシ					

911203 209

(原議用紙乙)

電	信	案	外	務	省
東京市側ニ「打金」ノ地ヲ指定シ、博覧会令ト同時ニ 開催スルコトハ、世里「セトル」イヌ「先例」 貴局電第四二二号ニ関シ					
暗 電送第 2015 號 昭和 10 年 2 月 23 日 午後 8 時 50 分 發		主 管 情報部長 任主 第二課長 在獨 武者小路大使 件 附件 宛 廣田大臣 發 廣田大臣 名 件 録 記			
第一二二號		昭和十年二月廿三日起草			

911203 208

I-0487

DRAFT



91120-3

211

Monsieur le Ministre:

情報部長

第二課長

I have the honour to acknowledge with thanks
the receipt of Your Excellency's note dated February
26th, informing me that Your Excellency has received an
official communication from ^{your} the Mexican Government to the
effect that at the meeting in Oslo, Norway, to determine
the siege of the XIIth International Olympic Games,
Mexico's vote will be cast in favour of the City of Tokyo.

^{have}
~~It was with great pleasure that I transmitted~~
^{above}
the ~~content of the note~~ to the City of Tokyo, which now
ask me to convey to Your Excellency ~~the expression of~~
^{its} ~~their~~ deep appreciation of ^{your} the Mexican Minister's good
offices in ^{the} ~~this~~ matter, in which I most gladly join.

Accept, Monsieur le Ministre, the renewed
assurances of my high consideration.

His Excellency

M. le Dr. Miguel Alonzo-Romero,
Minister for Mexico,
etc. etc. etc.

大臣 白 署

I wish to avail myself of this
opportunity to renew ^{to your Excellency} the assurances
of my high consideration.

February 26, 1935.

Monsieur le Ministre,

I take pleasure in informing Your
Excellency that I am in receipt of an official
communication from my Government to the effect that
at the meeting being held in Oslo, Norway, to deter-
mine the siege of the XIIth. International Olympic
Games, Mexico's vote will be cast in favour of the
City of Tokio.

Pray accept, Monsieur le Ministre,
the assurances of my highest consideration.

His Excellency
Mr. Koki Hirota,
Imperial Minister for Foreign Affairs,
etc. etc. etc.



91120-3

210

情報部長

第二課長

昭和拾年貳月廿八日 接受

土 呂 氏
大臣 白 署
大 臣 白 署
大 臣 白 署

I-0487

March 1, 1935.

Monsieur le Ministre:

I have the honour to acknowledge with thanks the receipt of Your Excellency's note dated February 26th, informing me that Your Excellency has received an official communication from your Government to the effect that at the meeting in Oslo, Norway, to determine the site of the XIth International Olympic Games, Mexico's vote will be cast in favour of the City of Tokyo.

not failed to
I have transmitted the above to the City of Tokyo, *the Mayor of the City of Tokyo* which now asks me to convey to Your Excellency its deep appreciation of your good offices in the matter. *to which*

I wish to avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my high consideration.

*I am
Happy to
serve.*

His Excellency
M. le Dr. Miguel Alonzo-Romero,
Minister for Mexico,
etc. etc. etc.



911203

212

I-0487

H. E. General Francisco
J. Aguillar

I-0487

008

DRAFT

Monsieur le Ministre:

I have the honour to acknowledge with thanks the receipt of Your Excellency's note dated February 26th, informing me that Your Excellency has received an official communication from your Government to the effect that at the meeting in Oslo, Norway, to determine the siege of the XIIth International Olympic Games, Mexico's vote will be cast in favour of the City of Tokyo.

I lost no time in transmitting the above to the Mayor of Tokyo, who asks me, on behalf of the City of Tokyo, to convey to Your Excellency the expression of its deep appreciation of your good offices in the matter, in which I am most happy to join.

I wish to avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my high consideration.

大臣 署 知

His Excellency General Francisco J. Aguillar
Minister for Mexico,
etc. etc. etc.



911203

213

March 1, 1936.

Monsieur le Ministre:

I have the honour to acknowledge with thanks the receipt of Your Excellency's note dated February 26th, informing me that Your Excellency has received an official communication from Your Government to the effect that at the meeting in Oslo, Norway, to determine the siege of the XIIth International Olympic Games, Mexico's vote will be cast in favour of the City of Tokyo.

I lost no time in transmitting the above to the Mayor of Tokyo, who asks me, on behalf of the City of Tokyo, to convey to Your Excellency the expression of its deep appreciation of your good offices in the matter, in which I am most happy to join.

I wish to avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my high consideration.

His Excellency
General Francisco J. Aguillar
Minister for Mexico,
etc. etc. etc.

I-0487

寫送先

次大臣
東亞
歐洲
米洲
通商
條約
情報
文書
調查
人事
文書
會計
祕書官

電信課長

昭和10

25 二八九七

平

オスロ本省

二月廿四日發着

情二

廣田外務大臣

杉村大使

一九四〇年「オリンピック」ヲ日本ニ與ヘル結果一九四四年獲得ニ付伊太利、瑞西、芬蘭ノ間ニ激シキ競争起ラントスルヲ以テEngstromハ白鳥公使ニ「オスロ」出張ヲ請ヒ帝國政府ニ於テモ氏ニ對シ極力援助ヲ與ヘル旨會議ニ出席説明アルコト會テ和蘭カ羅馬ニテ爲セル先例モアリ極メテ望マシトノ意見ヲ申出タリ御差支無クハ公使ニ右ニ付御訓令仰キ度委細ハ同公使ト打合致スヘシ

外務省



91120-3

214

I-0487

電信寫

昭和十
年二月
廿四日
午後
三時
發
杉村大使

昭和10

平
本
オスロ
省

二月廿四日前着

情二

廣田外務大臣

杉村大使

一九四〇年「オリンピック」ヲ日本ニ與ヘル結果一九四四年獲得ニ
付伊太利、瑞西、芬蘭ノ間ニ激シキ競争起ラントスルヲ以テEdsroen
ハ白鳥公使ニ「オスロ」出張ヲ請ヒ帝國政府ニ於テモ氏ニ對シ極力
援助ヲ與ヘル旨會議ニ出席説明アルコト會テ和蘭カ羅馬ニテ爲セル
先例モアリ極メテ望マシトノ意見ヲ申出タリ御差支無クハ公使ニ右
ニ付御訓令仰キ度委細ハ同公使ト打合致スヘシ



91120-3

215

I-0487

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 人文 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

11.12.0.9

大關

昭和10 2.21

二九三三 暗

ブラハ 本省

二月廿六日前着

情二

廣田外務大臣

小川代理公使

第一號

佛宛貴電合第一一一號ニ關シ

豫テ當國「オリムピック」關係筋ニ運動中ナリシ處二十五日代表委

員ヨリ今回「オスロ」會議ニ出席セサル爲電報ニテ一九四〇年東京

開催ニ贊成ノ投票ヲ爲シタル旨内報アリタリ

外務省

S

911203

216

大關
廣田外務大臣
小川代理公使
二月廿六日前着
情二

I-0487

秘

電信寫

東京
三月
十九日

東京

昭和10

暗

本 省

二月廿六日 午後

情二

東京

小川代理公使

第一號

御覽會第一一號ニ關シ

原テ當ハ「オリムピック」關係筋ニ運動中ナリシ處二十五日代表委

員ヨリ今回「オスロ」會議ニ出席セサル爲電報ニテ一九四〇年東京

會議ニ賛成ノ投票ヲ爲シタル旨内報アリタリ

S

911203

217

I-0487

088

急 電 入 事 務 次 官

電 信 案	外 務 省	再 回 令 計 保 在オスロー杉村大使ヨリ由官同地ニ出張 協力方ノ申出アリタルニ付必要ニ應シテオ スローニ出張同大使ヲ援助セラレタシ	略	電送第 2018 號	主 管
			略	昭和 10 年 2 月 25 日 前 11 時 25 分 發	電 信 課 長 印
			第 參 號 (至急)	件 「カリムビツ」大倉 1 件	宛 在瑞典 白鳥 公 便
				名 件 録 記	發 広田大臣

S 91120-3 218

昭和十一年二月二十日 起 草

I-0487

電信寫

昭和10

平 本 省

二月廿四日 發

情二

廣田外務大臣

杉村大使

一九四〇年「オリンピック」ヲ日本ニ與ヘル結果一九四四年獲得ニ
付伊太利、瑞西、芬蘭ノ間ニ激シキ競争起ラントスルヲ以テ
ハ白鳥公使ニ「オスロ」出張ヲ請ヒ帝國政府ニ於テモ氏ニ對シ極力
援助ヲ與ヘル旨會議ニ出席説明アルコト會テ和蘭力羅馬ニテ爲セル
先例モアリ極メテ望マシトノ意見ヲ申出タリ御差支無クハ公使ニ右
ニ付御訓令仰キ度委細ハ同公使ト打合致スヘシ



91120-3

219

I-0487

085

公機密第四六號

昭和十年二月二十八日

在伯

特命全權大使

澤田節藏



外務大臣 廣田弘毅殿

一九四〇年オリンピック大会東京開催ニ關スル件

本件ニ關シ本月中旬貴電ヲ以テ御來示ノ趣敬承仍而伯國ニ於テオリ
ンピツク委員會ニ正式連絡アル伯國運動聯盟 (Confederação Brasileira
desportes) ノ會長 Dr. Luiz Aranha 氏ニ伯國側カ一九四〇年オリンピ
ツク大会東京開催ニ賛成ノ意思表方依頼シタル處同氏ハ伯國ハ本月
廿五日オスローニ於テ開催セラルオリンピック委員會ニ代表者ヲ
有セス且本件ニ付同委員會ヨリ正式回答アリタル譯ニアラサルヲ以
テ之ニ對シ意思表示ヲナス能ハサルモ伯國トシテハ一九四〇年大会

在ブラジル日本大使館



91120-3

220

ヲ東京ニ持チ行クコトハ極メテ賛成ナルニ付其ノ旨外國通信社ニ聲
明スヘシトテ早速本件ニ當初ヨリ關心ヲ拂ヒ居リタル Internacional
News Service 當地支社 (ハースト系) ニ電話シタルカ同社ハ當館ノ
依頼ニ應シ紐育及倫敦ニ之ヲ電報シ倫敦ヨリ更ニオスローニ廿五日
會合ニ間ニ合フ様轉電セシメタル趣ナリ
何等御參考迄右報告ス

在ブラジル日本大使館



91120-3

221

電信寫

秘

昭和10

暗

南京
本省 二月廿七日後着

照

陸田外務大臣

須磨經領事

第二二二號

天津發貴大臣宛電報第三九號ニ關シ

廿七日唐有壬ハ本官ニ對シ王正廷赴日ニ付テハ何等聞キ居ラサルカ

若シ赴日ストスルモ「オリムビツク」關係位ニテ政府トハ聯絡ナシ

ト語リ居タリ御參考迄

S

911203

225

I-0487

秘

昭和10

暗

天津

二月廿六日後着

亞

駐日外務大臣

川越總領事

第三九號

電信寫

二十五日殷汝耕ノ永井ニ語ル處ニ依レハ最近王寵惠ハ日本朝野ノ歡待ヲ受ケ居レルカ王ノ赴日ハ何等蔣ヨリノ使命ヲ有シ居レルモノニ非スシテ全ク同人カ蔣介石ノ對日態度ヲ見透シ自己ノ外交界ニ於ケル地位確保ノ爲先手ヲ打チタルモノト認メラレ居レリ東京ハ更ニ今後目下馬尼刺ニ在ル王正廷ヲ迎フルコトナルヘキ處之亦王同様ノ目的ナルカ排日黨タル是等歐米派ノ遣方ノ圖々シサ及利口サニハ親日派中感嘆セルモノアリ李十一モ其ノ内赴日スヘキ處スバシコキ彼ハ是等歐米派ノ對日接近ニ氣ヲ腐ラセタル黃郛ノ心中ヲ見抜キ飛出セル次第ナルカ更ニ同歐米派ノ活躍ハ南京外交部ニモ衝動ヲ起シ居リ御承知ノ通り汪精衛ノ如キモ慌テテ中央政治會議ニ於テ例ノ聲明ヲナセリ此ノ聲明ハ右ノ意味ニテ一部ヨリ笑ハレ居レルカ兎ニ角是等歐米派ノ立廻リニ付テハ親日派ハ飛耳張目ノ狀態ナリトノコトナリ

尙王正廷ノ訪日ト關係アルカ否カ不明ナルモ長ラク當地ニ暫居ノ周龍光ハ日支提携問題ニ付熱心ニ考慮中ノ模様ニテ茲數日中ニ卦源スル趣ナリ

支、北平、南京、贛東、漢口、青島、滿ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

S

911203

227

S

911203

226

I-0487

第二課長

聯合 外信 第七號 十年二月廿八日

「同報濟」

◎東京招致確實か

ローマ二十七日發聯合至急報 イタリア政府當局は二十七日午後國際オリンピック委員會出席中の同國代表に對し「第十二回オリンピック大會を東京に於て舉行せんとする日本側の切なる希望に添ふため同大會のローマ招致要求を引込める様電報した」旨公式に聲明した、かくてイタリア側が大會ローマ招致要求を引込め再び日本援助といふことになつたので東京開催の見込は俄然確實性を増すに至つた

前 八・二〇

タ

911203

228



I-0487

大臣
次官

電信課長

東亞
歐洲
米商
通約
條報
情報
文書
調查
人書
文書
會計
會計
祕書
官

寫送先

I-12.0.9

昭和10 三二二四 平 3.4

オスロ 一日後發
本省 三月二日前着

情二

廣田外務大臣

杉村大使

東京市長へ

一日午前最後ノ會合ニ於テ伊太利委員ハ一九四〇年羅馬「オリン
ピック」ノ提議ヲ撤回シタルモ書面投票者三十四人ハ此ノ新事實ヲ
知ラスシテ投票シタル事情ヲ考慮スル必要モアリ種々議論ノ末遂ニ
決定ヲ來年ノ會合迄延期スル事ニ決セリ委員會ノ内外ニ於ケル經過
ニ付テハ朝日ノ特報ヲ參照セラレタシ尙白鳥公使鶴岡君ノ熱心ナル
協力アツタニ拘ラス今回ノ會合ニ於テ目的ヲ貫徹シ得サリシハ遺憾
ナリ委細書面ニテ報告ス

外務省

S

911203

229

I-0487

電信寫

昭和

四年

三月二日 午後發
本 省

情二

廣田外務大臣

杉村大使

東京市長へ

一日午前最後ノ會合ニ於テ伊太利委員ハ一九四〇年羅馬「オリン
ピック」ノ提議ヲ撤回シタルモ書面投票者三十四人ハ此ノ新事實ヲ
知ラスシテ投票シタル事情ヲ考慮スル必要モアリ種々議論ノ末遂ニ
決定ヲ來年ノ會合迄延期スル事ニ決セリ委員會ノ内外ニ於ケル経過
ニ付テハ朝日ノ特報ヲ參照セラレタシ尙白鳥公使鶴岡君ノ熱心ナル
協力アツタニ拘ラス今回ノ會合ニ於テ目的ヲ貫徹シ得サリシハ遺憾
ナリ委細書面ニテ報告ス



911203

230

I-0487

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

電信寫

東京市長へ
三月二日

二月
二十日

山崎

四等

オスロ
三月一日
本省三月二日前着

情

勝田外務大臣宛

杉村大使宛

東京市長へ

一日午前最後ノ會合ニ於テ伊太利委員ハ一九四〇年羅馬「オリン
ピック」ノ提議ヲ撤回シタルモ書面投票者三十四人ハ此ノ新事實ヲ
知ラスシテ投票シタル事情ヲ考慮スル必要モアリ種々議論ノ末遂ニ
決定ヲ來年ノ會合迄延期スル事ニ決セリ委員會ノ内外ニ於ケル經過
ニ付テハ朝日ノ特報ヲ參照セラレタシ尙白鳥公使鶴岡君ノ熱心ナル
協力アリタニ拘ラス今回ノ會合ニ於テ目的ヲ貫徹シ得サリシハ遺憾
ナリ委細書面ニテ報告ス

S

91120-3

233

I-0487

カリムベツシ東京招致ノ件

ナ、ミ、五、
(喜)

(美濃半襦袢紙) (イ)

東京市助役 落合慶四郎

天羽部長及田代課長ヲ来訪。翌日素ノ
由盡力ヲ深謝仕ル。件澤才依頼アリ

外務省

S 911203

234

I-0487

I-0487

	東京市	昭和十年三月五日	東京市長 牛塚 虎太	外務大臣 廣田 弘毅 殿	三月四日着副島道正伯發電報寫別紙ノ通御送付	申上候
		情報部 第二課長	昭和拾年參月七日 受			

S

911203

235

六六〇 郵船靖國丸 長崎無線 三〇 七三・〇
東京市

牛塚東京市長

使命ヲ果サズ歸國ノ途ニアルハ遺憾ニ堪ズ二十八日英國ノ消息通ヨリ
ムツソリニ一ガ杉村大使ト余ニ與ヘタル公約ヲ守ル旨伊太利代表ニ訓
電セルトノコトヲ知レリ
余ニ一ノ聲明ヲ希望セラレシガ當時ハコト余リニデリケートナリシ爲
此ヲ見合セタリ、要スルニムツソリニ一ハ日本ニ讓歩スルノ意志明瞭
ナルモ伊國體育家中ニハ巨額ノ金ヲ投ジテ完成セル大理石ノスタヂ
アム、プール・テニスコートヲ十年空シク風雨ニ曝スハ耐難キモノ
ナルガ如ク察セラレタリ。併シムツソリニ一ノ言ハ眞誠ナルガ故ニベ
ルリニ於テ伊國ガ我が主張ニ同意スベキハ疑ノ余地ナシ。余ハ一
月十六日后大患ニカ、リ昨日病床日誌ニ依リ初メテ肋膜炎ナリシコ
トヲ知レリ、三百本ノ注射ニテ辛ウジテ危險ノ域ヲ脱シ昨日病床ヨリ

東京市

本船ニ乗り移レルモ又發熱目下船醫ノ看護ヲ受ケツツアリ、余ノ病
中杉村大使初メ館員陸海軍駐在員夫妻ノ熱心ナル看護ハ余ノ終生忘レ
得ザルモノナリ、東京市代表タル余ニ對スル此厚意ニ對シ感謝ノ意ヲ
含メテ本文寫ヲ外務省陸海軍省ニ御送達ヲ請フ。体育會ニモ通知セラ
レ度 副島

911203

237

911203

236

I-0487

懸案

文書課長

課發送

人
い

淨書

正校
(原稿)

(淨書)

管主
情報部長

主任
第二課長

昭和十年乙月十二日起草

報二
普通
第

昭和十年
五月
附屬

附屬

東京市長
牛塚虎太郎

丸ノ内
ハ
湖
ビ

大日本作詩協会

刻今良 可似亮三

別島伯ノ客爲ニ因ル件

本件之圖之在伊張問代理公便已。別紙寫一通。電

報越し、付右宮若許送付不

公
信
案

外
務
省

公
信
案

外務省

別紙を報告するに付、



91120-3

239



91120-3

238

(711)